2027 年度
新潟大学医歯学総合病院

オール新潟（大学基幹）
内科専門研修プログラム



オール新潟（大学基幹）内科専門研修プログラム

1.理念・使命・特性

理念 ［整備基準 1］

1） 本プログラムは，新潟県の国立大学である新潟大学医歯学総合病院を基幹施設として，新潟県内59 連携施設（県内 52 施設，県外 7 施設）で構成されています．本プログラムに則った内科専門研修を経ることで新潟県内の二次医療圏の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．さらに内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はさらに高度な総合内科の能力を獲得する場合や内科領域サブスペシャリティ専門医への道を歩む場合を想定して，2 種類のコース別に研修をおこなって内科専門医の育成を行います．すなわち内科重点コースとサブスペ重点コースの二種類です．

2） 初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設に最低 1 年間＋連携施設に最低 1 年間）に，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得することができます．

内科領域全般の診療能力とは，臓器別の内科系サブスペシャリティ分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力を指します．また，知識や技能に偏らずに，患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です．

使命［整備基準 2］

1） 内科専門医として，(1)高い倫理観を持ち，(2)最新の標準的医療を実践し，(3)安全な医療を心がけ，(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います．

2） 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得し，標準的な医療を安全に提供し，社会における内科医に求められる役割を認識し，疾病の予防，早期発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて，地域住民，日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います．

3） 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います．

4） 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います．

特性

1） 本プログラムは，新潟大学医歯学総合病院を基幹施設として，新潟県内の全ての二次医療圏，並びに関連する研修連携施設をプログラムとしての守備範囲とし，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は基幹施設に最低 1 年間＋連携施設に最低 1 年間，合計 3 年間です．専攻医にはそれぞれの研修施設において担当指導医（メンター）を決め，専攻医の研修の進捗状況，メンタルな面でのフォローなどを行う体制を作ります．また個々の専攻医の希望に合わせて柔軟に対応できるようにしています．

2） 本研修プログラムでは，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします．

3） 基幹施設である新潟大学医歯学総合病院及び連携研修病院群での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 80 症例以上を経験し，J-OSLER に登録できます．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成することを目標とします．

4） 連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，最低でも 1 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します．

5） 専攻医 3 年修了時で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，120 症例以上を経験し，J-OSLER に登録できる体制とします．そして可能な限り，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします．

専門研修後の成果　[整備基準 3]

1） 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し，内科慢性疾患に対して，生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します．

2） 内科系救急医療の専門医：内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な，地域での内科系救急医療を実践します．

3） 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院での内科系診療で，内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち，総合内科医療を実践します．

4） 総合内科的視点を持ったサブスペシャリティ専門医：病院での内科系のサブスペシャリティを

受け持つ中で，総合内科（Generalist）の視点を持った内科系サブスペシャリティ専門医として診療を実践します.

本プログラムでは新潟大学医歯学総合病院を基幹病院として，多くの連携施設と病院群を形成しています．複数の施設での経験を積むことにより，様々な環境に対応できる内科専門医が育成される体制を整えています.

2.内科専門医研修はどのように行われるのか ［整備基準：13～16，30］

1） 研修段階の定義：内科専門医は2年間の初期臨床研修後に設けられた3年間の専門研修（専攻医研修）で育成されます.

2） 専門研修の3年間は，それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と日本内科学会が定める「内科専門研修カリキュラム」（別添）にもとづいて内科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し，基本科目修了の終わりに達成度を評価します．具体的な評価方法は後の項目で示します.

3） 臨床現場での学習：日本内科学会では内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載することを定めています．J-OSLER への登録と指導医の評価と承認とによって目標達成までの段階を up to date に明示することとします．各年次の到達目標は以下の基準を目安とします.

○専門研修 1 年

- 症例：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち，20 疾患群以上を経験し，J-OSLER に登録することを目標とします．またこの際に，初期研修で経験した症例も厳選してその一部を前述のシステムに登録します.
- 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします.
- 態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います.

○専門研修 2 年

- 疾患：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち，通算で 45 疾患群以上を（できるだけ均等に）経験し，評価システムに登録することを目標とします.
- 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします.
- 態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います．専門研修 1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします.

○専門研修 3 年

- 疾患：主担当医として，カリキュラムに定める全 70 疾患群，計 200 症例の経験を目標とします．但し，修了要件はカリキュラムに定める 56 疾患群，そして 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができる）とします．この経験症例内容を評価システムへ登録します．既に登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます．
- 技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができるようにします．
- 態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います．専門研修 2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．また，基本領域専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります．

なお，J-OSLER の登録内容と適切な経験と知識の修得状況は指導医によって承認される必要があります．

【専門研修 1-3 年を通じて行う現場での経験】

① 専攻医 2 年目以降から初診を含む外来（1 回／週以上）を通算で 6 ヵ月以上行います．

② 当直を経験します．

4） 臨床現場を離れた学習

①内科領域の救急，②最新のエビデンスや病態・治療法について全ての医師を対象とした研究会やセミナーが開催されており，それらを聴講し，学習することができます．内科系学術集会，JMECC（内科救急講習会）等においても学習します．また JMECC は最低でも年 1 回は開催します．

5） 自己学習

研修カリキュラムにある疾患について，内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信を用いて自己学習します．個人の学習状況に応じて適宜 DVD やオンデマンドの配信の視聴ができるよう図書館またはインターネット環境を準備します．また，日本内科学会雑誌の MCQ やセルフトレーニング問題を解き，内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします．適宜，指導医とのミーティングを行い，その際，専攻医の自己学習結果を指導医が評価し，研修手帳に記載します．

6） 大学院進学

大学院における臨床研究は臨床医としてのキャリアアップにも大いに有効であることから，臨床研究の期間も専攻医の研修期間として認められます．臨床系大学院へ進学しつつ専門医資格が取得できるコース（サブスペ重点コース）も用意されています（項目８：P.7 を参照）．詳細については将来，専攻を希望するサブスペシャリティ科講座の担当教員，指導医と相談して下さい．

7） サブスペシャリティ研修

後述する” サブスペ重点コース”において，それぞれの専門医像に応じた研修を準備しています．サブスペシャリティ研修は 3 年間の内科研修期間の，いずれかの年度で最長 2 年間について内科研修の中でサブスペシャリティ領域の研修を重点的に行います．大学院進学を検討する場合につきましても，こちらのコースを参考に後述の項目８（P.7）を参照してください．

3.専門医の到達目標項目 2-3）を参照 ［整備基準：4，5，8～11］

1） 3 年間の専攻医研修期間で，以下に示す内科専門医受験資格を完了することとします．

1） 70 に分類された各カテゴリーのうち，最低 56 のカテゴリーから 1 例を経験すること．

2） J-OSLER へ症例(疾患群中 56 疾患群以上で計 120 症例以上)を登録し，それを指導医が確認・評価すること．

3） 登録された症例のうち，29症例を病歴要約として内科専門医制度委員会へ提出し，査読委員から合格の判定をもらうこと．

4） 技能・態度：内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針を決定する能力，基本領域専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得すること．

なお，習得すべき疾患，技能，態度については多岐にわたるため，研修手帳を参照してください．

2） 専門知識について

内科研修カリキュラムは総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病および類縁疾患，感染症，救急の 13 領域から構成されています．新潟大学医歯学総合病院には 10 の内科系診療科があり，そのうち 7 つの診療科（循環器内科，血液・内分泌代謝内科，呼吸器・感染症内科，腎・膠原病内科，消化器内科，神経内科，総合診療科）が複数領域を担当しています．また，救急疾患は各診療科や救急科によって管理されており，新潟大学医歯学総合病院においては内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています．これらの診療科での研修を通じて，専門知識の習得を行ないます．さらに別紙の連携研修施設群を構築することで，より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります．患者背景の多様性に対応するため，新潟県内の地域医療機関（連携研修施設）または県外の連携研修施設での研修を通じて幅広い活動を推奨しています．

4.各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得 ［整備基準：13］

1） カンファレンス・チーム回診

それぞれのサブスペシャリティ科のスケジュールに沿ったチーム回診，カンファレンスを通じて指導医からフィードバックを受け，指摘された課題について学習を進めます．

2） 総回診：受持患者について教授をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けます．受持以外の症例についても見識を深めます．

3） 症例検討会（毎週）：診断・治療困難例，臨床研究症例などについて専攻医が報告し，指導医からのフィードバック，質疑などを行います.

4） 診療手技セミナー（毎週）：
例：心臓エコーを用いて診療スキルの実践的なトレーニングを行います.

5） ＣＰＣ：死亡・剖検例，難病･稀少症例についての病理診断を検討します.

6） 関連診療科との合同カンファレンス：関連診療科と合同で，患者の治療方針について検討し，内科専門医のプロフェッショナリズムについても学びます.

7） 抄読会・研究報告会（毎週）：受持症例等に関する論文概要を口頭説明し，意見交換を行います．研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い，学識を深め，国際性や医師の社会的責任について学びます.

8） 指導医とのミーティング：適宜，専攻医は指導医との面談を行い，その際，自己学習結果を指導医が評価し，研修手帳に記載します.

9） 学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生･初期研修医を指導します．後輩を指導することは，自分の知識を整理・確認することにつながることから，当プログラムでは，専攻医の重要な取組と位置づけています.

5.学問的姿勢 ［整備基準：6，30］

患者から学ぶという姿勢を基本とし，科学的な根拠に基づいた診断，治療を行います（evidence based medicine の精神）．最新の知識，技能を常にアップデートし，生涯を通して学び続ける習慣を作ります．また，日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するため，症例報告あるいは研究発表を奨励します．論文の作成は科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くために極めて重要なことであり，内科学会信越地方会を始めとした国内外へ広く情報発信する姿勢も高く評価されます.

6.医師に必要な，倫理性，社会性 ［整備基準：7］

医師の日々の活動や役割に関わってくる基本となる能力，資質，態度を患者への診療を通して医療現場から学びます.

新潟大学医歯学総合病院（基幹病院）において症例経験や技術習得に関して，単独で履修可能であっても，研修連携施設（含特別連携施設）において，地域住民に密着し，病病連携や病診連携を依頼する立場を経験することにより，地域医療を実施します．そのため複数施設での研修を

行うことが望ましく，全てのコースにおいてその経験を積みます．詳細は項目 8（P7）を参照してください．

地域医療を経験するため，全てのプログラムにおいて連携施設群（別紙参照）での研修期間を設けています．専攻医は，連携施設においては基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します．入院症例だけでなく外来での基本となる能力，知識，スキル，行動の組み合わせを指します．なお，連携施設群へのローテーションを行うことで，地域においては，人的資源の集中を避け，派遣先の医療レベル維持に貢献します．

基幹施設，連携施設を問わず，患者への診療を通して，医療現場から学ぶ姿勢の重要性を知ることができます．インフォームド・コンセントを取得する際には上級医に同伴し，接遇態度，患者への説明，予備知識の重要性などについて学習します．医療チームの重要な一員としての責務（患者の診療，カルテ記載，病状説明など）を果たし，リーダーシップをとれる能力を獲得できるようにします．

医療安全と院内感染症対策を充分に理解するため，年に 2 回以上の医療安全講習会，感染対策講習会に出席します．出席回数は常時登録され，年度末近くになると受講履歴が個人にフィードバックされ，受講を促されます．

7.研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方 ［整備基準：25，26，28，29］

新潟大学医歯学総合病院（基幹施設）において症例経験や技術習得に関して，単独で履修可能であっても，地域医療を実施するため，複数施設での研修を行うことが望ましく，全てのコースにおいてその経験を求めます．（詳細は項目 10（P.9）と 11（P.10）を参照のこと）

地域医療を経験するため，全てのプログラムにおいて連携施設群（別紙参照）での研修期間を設けています．研修を行う連携施設は、内科基本コースの専攻医にあってはプログラム統括責任者と，サブスペ重点コースの専攻医にあっては当該サブスペシャルティ科の総括医長と相談の上，決定します．連携病院へのローテーションを行うことで，人的資源の集中を避け，派遣先の医療レベル維持にも貢献できます．連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します．入院症例だけでなく外来での経験を積み，施設内で開催されるセミナーへ参加します．

地域における指導の質および評価の正確さを担保するため，常にメールなどを通じて研修センターと連絡ができる環境を整備し，適宜，基幹病院を訪れ指導医と面談し，プログラムの進捗状況を報告します．

8.年次毎の研修計画 ［整備基準：16，25，31，32］

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の 2 つのコース，①内科基本コース，②サブスペ重点コース，を準備しています．コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます．

サブスペシャリティが未定，または高度な総合内科専門医を目指す場合は内科基本コースを選択します．その場合，専攻医は各内科学部門ではなく，医師キャリア支援センターに所属し，3 年

間で各内科や内科臨床に関連ある救急部門などを 3 ヵ月毎にローテートします．将来のサブスペシャリティが決定している専攻医はサブスペ重点コースを選択し，各科を原則として 3 ヵ月毎，研修進捗状況によっては 1 ヵ月～3 ヶ月毎にローテーションします．いずれのコースを選択しても遅滞なく内科専門医受験資格を得られる様に工夫されており，専攻医は卒後 5～6 年で内科専門医，その後サブスペシャリティ領域の専門医取得ができます．

① 内科基本コース（P.16 参照）

内科（Generality）専門医は勿論のこと，将来，内科指導医や高度な総合内科を目指す方も含まれます．将来のサブスペシャリティが未定な場合に選択することもあり得ます．内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり，専攻医研修期間の 3 年間において内科領域を担当する全ての科をローテーションします．原則として新潟大学医歯学総合病院内では 3 ヵ月を 1 単位として，また連携研修施設に於いてはその施設の状況に合わせて 1 年間に 1～4 科，3 年間で最低でも 8 科をローテーションします．原則として 3 年目は連携施設での研修となりますが、地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します．連携施設としては別紙にあるような施設群で病院群を形成し，いずれかを原則として最低 1 年間ローテーションします（複数施設での研修の場合は研修期間の合計が 1 年間となります）．研修する連携施設の選定はプログラム統括責任者が専攻医と面談の上，決定します．

② サブスペ重点コース（P.17 参照）

希望するサブスペシャリティ領域を重点的に研修するコースです．研修開始直後の 6 か月間は希望するサブスペシャリティ領域にて初期トレーニングを行います．この期間，専攻医は将来希望する内科において理想的医師像とする指導医や上級医師から，内科医としての基本姿勢のみならず，目指す領域での知識，技術を学習することにより，内科専門医取得へのモチベーションを強化することができます．その後，3 ヵ月間を基本として他科（場合によっては連携施設での他科研修含む）をローテーションします．研修 3 年目には，連携施設における当該サブスペシャリティ科において内科研修を継続してサブスペシャリティ領域を重点的に研修するとともに，充足していない症例を経験します．研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上，希望するサブスペシャリティ領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します．なお，研修中の専攻医数や進捗状況，また本人の希望などにより，初年度から連携施設での重点研修を行うことがありますが，あくまでも内科専門医研修が主体であり，重点研修は最長 2 年間とします．別紙 2 に示すこのコースでは，最初の 6 ヶ月間をサブスペシャリティの重点期間に当てていますので，連携施設でのサブスペシャリティ重点期間が残る 18 ヶ月となります．サブスペ重点コースにおけるサブスペシャリティ重点期間は最長 2 年間という期間制約があることをご留意ください．また，専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は，本コースを選択の上，担当領域の教授・指導医と協議して大学院入学時期を決定します．

9.専門医研修の評価 ［整備基準：17～22］

① 形成的評価（指導医の役割）

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と，専攻医が Web 版の研修手帳に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し，症例要約の作成についても指導します．また，技術・技能についての評価も行います．年に1回以上，目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき，研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い，適切な助言を行います．

研修センターは指導医のサポートと評価プロセスの進捗状況についても追跡し，必要に応じて指導医へ連絡を取り，評価の遅延がないようにリマインドを適宜行います．

② 総括的評価

専攻医研修3年目の3月に研修手帳を通して経験症例，技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います．29 例の病歴要約の合格，所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります．

最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます．

その修了後に実施される内科専門医試験（毎年夏～秋頃実施）に合格して，内科専門医の資格を取得します．

③ 研修態度の評価

指導医や上級医のみでなく，メディカルスタッフ（病棟看護師長，臨床検査・放射線技師・臨床工学技士，薬剤師など）から，接点の多い職員5名程度を指名し，毎年3月に評価します．評価法については別途定めるものとします．

④ 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき，また指導医とのミーティングを通じて，研修上の問題点や悩み，研修の進め方，キャリア形成などについて考える機会を持ちます．

10. 専門研修プログラム管理委員会 ［整備基準：34～39］

1）研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会（総合研修部）を新潟大学医歯学総合病院内に設置し，その委員長をプログラム統括責任者が兼任し，その他副統括責任者を 2 名，及び大学病院内の各内科から 1 名ずつ，全ての連携施設から管理委員を 1 名ずつ選任します．その他，他職種からもプログラム管理委員会の委員になってもらいます．プログラム管理委員会の下部組織として，基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き，委員長が統括します．

11. 専攻医の就業環境（労務管理）[整備基準：40]

専攻医の勤務時間，休暇，当直，給与等の勤務条件に関しては，専攻医の就業環境を整えることを重視します.

労働基準法を順守し，新潟大学医歯学総合病院の「※専攻医就業規則及び給与規則」に従います．専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します．特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います．専攻医は採用時に上記の労働環境，労働安全，勤務条件の説明を受けることとなります．プログラム管理委員会では各施設における労働環境，労働安全，勤務に関して報告され，これらの事項について総括的に評価します.

※ 本プログラムでは基幹施設，連携施設の所属の如何に関わらず，基幹施設である新潟大学医歯学総合病院の統一的な就業規則と給与規則で統一化していますが，このケースが標準系ということではありません．個々の連携施設において事情は様々ですが，専攻医に配慮のある明確な諸規則を用意いたします.

12. 専門研修プログラムの改善方法 [整備基準：49～51]

1ヵ月毎に研修プログラム管理委員会を新潟大学医歯学総合病院にて開催し，プログラムが遅滞なく遂行されているかを全ての専攻医について評価し，問題点を明らかにします．また，各指導医と専攻医の双方からの意見を聴取して適宜プログラムに反映させます．また，研修プロセスの進行具合や各方面からの意見を基に，プログラム管理委員会は毎年，次年度のプログラム全体を見直すこととします.

専門医機構によるサイトビジット（ピアレビュー）に対しては研修管理委員会が真摯に対応し，専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受け，プログラムの改善に繋げます.

13. 修了判定 [整備基準：21，53]

J-OSLER に以下のすべてが登録され，かつ担当指導医が承認していることをプログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行います.

1) 修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験し，登録しなければなりません.
2) 所定の受理された 29 編の病歴要約
3) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
4) JMECC 受講
5) プログラムで定める講習会受講
6) 指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価の結果に基づき，医師としての適性に疑問がないこと.

14.　専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと　[整備基準：21，22]

専攻医は所定の様式(未定)を専門医認定申請年の 1 月末までにプログラム管理委員会に送付してください．プログラム管理委員会は 3 月末までに修了判定を行い，研修修了証明書を専攻医に送付します．その後，専攻医は日本専門医機構内科専門医委員会に専門医認定試験受験の申請を行ってください．

15.　研修プログラムの施設群［整備基準：23～27］

新潟大学医歯学総合病院が基幹施設となり，別紙の研修連携施設群，特別連携研修施設群などを加えた専門研修施設群を構築することで，より総合的な研修や地域における医療研修が可能となります．

【連携施設一覧】

新潟県立柿崎病院	南魚沼市民病院	新潟市民病院
新潟県立中央病院	新潟県立がんセンター新潟病院	西新潟中央病院
上越地域医療センター病院	厚生連柏崎総合医療センター	新潟県立坂町病院
済生会三条病院	厚生連佐渡総合病院	新潟県立妙高病院
厚生連長岡中央綜合病院	厚生連豊栄病院	厚生連糸魚川総合病院
長岡赤十字病院	厚生連新潟医療センター	厚生連上越総合病院
厚生連小千谷総合病院	済生会新潟病院	厚生連けいなん総合病院
立川綜合病院	厚生連村上総合病院	魚沼市立小出病院
あがの市民病院	脳神経センター阿賀野病院	国立病院機構新潟病院
済生会新潟県央基幹病院	町立津南病院	新潟県立十日町病院
佐渡市立両津病院	新津医療センター病院	新潟県立新発田病院
亀田第一病院	見附市立病院	総合リハビリテーションセンター・みどり病院
魚沼基幹病院	新潟県立吉田病院	竹田綜合病院
まつだい診療センター	桑名病院	水戸済生会総合病院
新潟南病院	新潟臨港病院	埼玉県済生会川口総合病院
日本歯科大学新潟病院	新潟白根総合病院	榊原記念病院
信楽園病院	秋田赤十字病院	山形県立中央病院
新潟脳外科病院	鶴岡市立荘内病院	木戸病院
新潟県立津川病院	五泉中央病院	新潟県立加茂病院
下越病院		

16. 専攻医の受入数

新潟大学医歯学総合病院における専攻医の上限（学年分）は 50 名です.

1） 新潟大学医歯学総合病院に卒後 3 年目で内科系講座に入局した後期研修医は過去 3 年間併せて 70 名で 1 学年 22～25 名の実績があります.

2） 新潟大学医歯学総合病院には各医局に割り当てられた雇用人員数に応じて，募集定員を一医局あたり数名の範囲で調整することは可能です.

3） 剖検体数は，2023 年 13 体，2024 年 9 体，2025 年 6 体です．しかしプログラム全体では十分な症例があります.

4） 経験すべき症例数の充足について

表．新潟大学医歯学総合病院診療科別診療実績

2025 年度実績	入院患者実数 （人/年）	外来患者実数 （人/年）
循環器内科	1,082	4,983
血液	132	1,771
内分泌・代謝内科	176	4,507
腎・膠原病内科	513	3,438
呼吸器感染症内科	575	3,971
消化器内科	801	5,371
脳神経内科	359	2,105
腫瘍内科	51	198
総合診療科	0	364

上記表の入院患者について DPC 病名を基本とした各診療科における疾患群別の入院患者数と外来患者疾患を分析したところ，全 70 疾患群のうち，全てにおいて充足可能でした．また連携施設，及び特別連携施設は 58 施設あり，様々なニーズに対応することができます．それらの施設での研修を加えることにより修了条件を満たすことができます.

5） 専攻医 3 年目に研修する連携施設・特別連携施設には，新潟県内に連携施設 51 施設，新潟県外には連携施設 7 施設，これらを組み合わせることにより専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です．また自治医大生，地域枠医学生，県費修学生など一定の義務年限を持つ専攻医に対しても特別連携施設などを活用し，可能な限り遅滞なく専攻医を取得できるよう配慮しています.

17. サブスペシャリティ領域

内科専攻医になる時点で将来目指すサブスペシャリティ領域が決定していれば，サブスペ重点コースを選択することになります．内科基本コースを選択していても，その途中で目指すサブスペシャリティ領域が確定すればサブスペ重点コースに移行することも可能です．内科専門医研修

修了後，各領域の専門医（例えば循環器専門医）を目指します.

18. 研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件 ［整備基準：33］

1） 出産，育児によって連続して研修を休止できる期間を6カ月とし，研修期間内の調整で不足分を補うこととします．6 か月以上の休止の場合は，未修了とみなし，不足分を予定修了日以降に補うこととします．また，疾病による場合も同じ扱いとします.

2） 研修中に居住地の移動，その他の事情により，研修開始施設での研修続行が困難になった場合は，移動先の基幹研修施設において研修を続行できます．その際，移動前と移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを摘要します．この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります.

19. 専門研修指導医 ［整備基準：36］

指導医は下記の基準を満たした内科専門医です．専攻医を指導し，評価を行います.

【必須要件】

1. 内科専門医を取得していること
2. 専門医取得後に臨床研究論文（症例報告含む）を発表する（「first author」もしくは「corresponding author」であること）．もしくは学位を有していること.
3. 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了していること.
4. 内科医師として十分な診療経験を有すること.

【(選択とされる要件（下記の 1，2 いずれかを満たすこと】

1. CPC，CC，学術集会（医師会含む）などへ主導的立場として関与・参加すること
2. 日本内科学会での教育活動（病歴要約の査読，JMECC のインストラクターなど）

※ 但し，当初は指導医の数も多く見込めないことから，すでに「総合内科専門医」を取得している方々は，そもそも「内科専門医」より高度な資格を取得しているため，申請時に指導実績や診療実績が十分であれば，内科指導医と認めます．また，現行の日本内科学会の定める指導医については，内科系サブスペシャリティ専門医資格を 1 回以上の更新歴がある者は，これまでの指導実績から，移行期間（2025 年まで）においてのみ指導医と認めます.

20. 専門研修実績記録システム，マニュアル等 ［整備基準：41～48］

専門研修は別添の専攻医研修マニュアルにもとづいて行われます．専攻医は別添の専攻医研修実績記録に研修実績を記載し，指導医より評価表による評価およびフィードバックを受けます．総括的評価は臨床検査専門医研修カリキュラムに則り，少なくとも年１回行います.

21. 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価 [整備基準：49]

専攻医はJ-OSLERを用いて無記名式の逆評価を行う．逆評価は年に複数回行い，また専攻医が複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設毎に逆評価を行う．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，及びプログラム統括委員会が閲覧できる．そして集計結果に基づき，プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てる．実際の改善の取組は項目50を参照する．

22. 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善に繋げるプロセス [整備基準：50]

項目 21 に示したように専攻医によって行われた逆評価（J-OSLER に結果が残る）については，施設の研修委員会，プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会がそれを評価し，プログラムの状況を把握する．それらについてはプログラム管理委員会が各々を緊急性に応じて分類し，対応を検討する．

これらのモニターにより，プログラム内の自立的な改善に役立てると共に，プログラム内の改善が難しい場合には，日本専門医機構内か領域研修委員会が適切に支援を行い，場合によっては指導も行っていく．またこのモニターの活用により，理想的にプログラムを運営しているところについてはモデルケースとして積極的に検証の対象とし，全国のプログラム運営全体の効果的な促進に役立てる．

23. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）[整備基準：51]

研修プログラムに対して日本専門医機構からのサイトビジットがあります．サイトビジットにおいては研修指導体制や研修内容について調査が行われます．その評価はプログラム管理委員会に伝えられ，必要な場合は研修プログラムの改良を行います．

24. 専攻医の修了 [整備基準：52，53]

1） 研修の修了

全研修プログラム終了後，プログラム統括責任者が召集するプログラム管理委員会にて審査し，研修修了の可否を判定します．

点検の対象となる書類は以下の通りです．

（1）専門研修実績記録
（2）「経験目標」で定める項目についての記録
（3）「臨床現場を離れた学習」で定める講習会出席記録
（4）指導医による「形成的評価表」

面接試験は書類点検で問題にあった事項について必要時に行われます．

以上の審査により，内科専門医として適格と判定された場合は，研修修了となり，修了証が発行されます.

内科基本コース（別紙 1）

内科基本コース

<table>
<tr><td>専攻医研修</td><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td></tr>
<tr><td rowspan="3">1年目</td><td colspan="3">呼吸器・感染症</td><td colspan="3">神経</td><td colspan="3">腎膠原病</td><td colspan="3">消化器</td></tr>
<tr><td colspan="12">地域医療機関において2回/月の日当直を行う</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="8">1年目にJMECCを受講する</td><td colspan="3">病歴提出の準備開始</td></tr>
<tr><td rowspan="3">2年目</td><td colspan="4">循環器</td><td colspan="3">血液</td><td colspan="3">代謝・内分泌</td><td colspan="2">総合診療（腫瘍）</td></tr>
<tr><td colspan="12">地域医療機関において2回/月の日当直を行う</td></tr>
<tr><td colspan="10">様々な講習会(JPTEC、ALSOなど)を希望制により受講する</td><td colspan="2">病歴提出の準備</td></tr>
<tr><td rowspan="3">3年目</td><td colspan="10">連携施設</td><td colspan="2" rowspan="2">不足している分野を重点的に症例経験を積む</td></tr>
<tr><td colspan="7">初診＋再来外来を担当する</td><td colspan="3">訪問診療も体験</td></tr>
<tr><td colspan="3">内科地方会で発表する</td><td colspan="9"></td></tr>
</table>

ローテーションについて	最初の３ヶ月は研修する科において基本的トレーニングを受けます．その後、他科（内科の他のサブスペシャルティ）を原則として３ヶ月を単位としてローテーションします．その後、不足している分野の症例を経験できるようにプログラム統括責任者と相談の上で回るべき科を調整します．特に3年目の研修では不足している分野を重点的に経験できるよう回るべき科を選択できるようにします．

※モデルプログラムとして紹介するこのコースでは連携施設での研修を３年目としていますが，連携施設での研修を何年目に行うのかは専攻医とプログラム統括責任者とで相談の上，決定します．（最終的に修了要件を満たすことが重要です）

サブスペ重点コース（別紙 2）

サブスペ重点コース（循環器内科の場合）

<table>
<tr><td>専攻医研修</td><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td></tr>
<tr><td rowspan="3">1年目</td><td colspan="3">循環器内科</td><td colspan="3">他科１</td><td colspan="3">他科２</td><td colspan="3">他科３</td></tr>
<tr><td colspan="12">地域医療機関において2回/月の日当直を行う</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="8">1年目にJMECCを受講する</td><td colspan="3">病歴提出の準備開始</td></tr>
<tr><td rowspan="3">2年目</td><td colspan="12">連携施設（循環器内科医局と相談の上、決定する）</td></tr>
<tr><td colspan="12">連携施設において総合医として勤務し、不足分野の症例を経験する</td></tr>
<tr><td colspan="9">様々な講習会(JPTEC、ALSOなど)を希望制により受講する</td><td colspan="3">病歴提出の準備</td></tr>
<tr><td rowspan="3">3年目</td><td colspan="3">連携施設（2年目より継続）</td><td colspan="9">大学病院で循環器内科を重点的に経験する</td></tr>
<tr><td colspan="3">訪問診療も体験</td><td colspan="3">初診＋再来外来を担当する</td><td colspan="6">夜間、社会人大学院生として研究を開始する</td></tr>
<tr><td colspan="3">内科地方会で発表する</td><td colspan="9"></td></tr>
</table>

他科ローテーションについて	最初の３ヶ月は所属した科において基本的トレーニングを受けます．その後、他科（内科の他のサブスペシャリティ）を原則として３ヶ月を単位としてローテーションします．その後、所属した科を重点的に回りつつも，不足している分野の症例を経験できるように所属科の担当指導医が調整します．特に3年目の研修では不足している分野を重点的に経験できるよう担当指導医と相談の上，回るべき科を選択できるようにします．

上記はあくまでも一例であり，実際の研修の際にどのタイミングで連携施設の研修を行うかは，当該科の指導医と専攻医とでよく相談の上，決定します．

連携施設概要

１．新潟県立柿崎病院

1）専攻医へメッセージ	県立柿崎病院のある上越市頸北地区は、柿崎区、吉川区、大潟区からなる人口約 2 万人の地域で、高齢化率も高く、一般病床を有する病院は当院以外近隣にない地区である。 そのような場所で、何でも診る「総合内科医」として、「患者さんの立場に立った良質な医療を提供し、地域の皆さんの健康維持、増進に貢献する」を合言葉に運営しています。職員一人一人が患者さんのことを常に考え、医療安全と院内感染対策を充実させ、提供する診療レベルを向上させることに努めています。多職種が参加する退院カンファランスを頻回に開催しています。訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、人間ドック、院内健康教室も行っています。加えて、隣接する特別養護老人ホームや近隣の介護老人保健施設との連携会議を定期的に開催し、地域包括ケアを推進しています。当院での研修で、地域を診る総合力を身に付けられるでしょう。
2）指導医・専門医数	総合内科専門医 1 名 感染症指導医・専門医 1 名 呼吸器内科専門医 1 名 老年医学専門医 1 名
3）外来・入院患者数	外来：1,800 名　　入院：1,000 名　（1 か月平均）
4）病院の特徴	・研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例をほぼ経験できます。 ・技術・技能評価手帳にある必要な技術、技能を、実際の症例に基づきながら経験できます。（腹部超音波検査、心臓超音波検査、上部消化管検査、下部消化管検査、呼吸機能検査、睡眠ポリグラフ検査、ペインコントロール） ・訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、人間ドック、院内健康教室を行っています。 ・高齢社会の医療のあり方を経験し、考え、地域の中での医療を実践できます。
5）学会認定施設	無

２．新潟県立中央病院

1）専攻医へメッセージ	上越医療圏 25 万の中核病院で、3 次患者の治療を引き受けている。診療可能な病態はほぼ網羅し、治療を行っている。
2）指導医・専門医数	内科指導医 15 名 総合内科専門医 15 名 消化器病専門医 3 名 循環器専門医 3 名 腎臓専門医 2 名 呼吸器専門医 5 名 血液専門医 2 名 神経内科専門医 2 名 救急科専門医 1 名
3）外来・入院患者数	外来：8,769 名　　入院：5,566 名　（1 か月平均）
4）病院の特徴	全ての疾患群を経験可能であり、日常診療における必要な技術・技能は、習得可能である。また、地域医療や診療連携については、他院、診療所からの紹介や逆紹介を通じ、病診連携の実際を経験できる。
5）学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育病院　日本血液学会認定医制度研修施設 消化器病学会施設　消化器内視鏡学会認定指導施設　循環器学会認定循環

	器専門医制度研修施設　日本呼吸器内視鏡学会認定施設　呼吸器学会認定施設　日本糖尿病学会教育関連施設　日本腎臓学会研修施設　日本リウマチ学会教育施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設

３．上越地域医療センター病院

1）専攻医へメッセージ	開設者が上越市、指定管理者として一般財団法人上越市地域医療機構が運営する病院であり、院内および市の診療所での診察・健診業務を実践することが可能なことから総合診療のスキルを身につけることができます。
2）指導医・専門医数	内科指導医０名、専門医１名
3）外来・入院患者数	外来：121.0 名　入院：151.5 名　　（１か月平均）※令和７年度実績
4）病院の特徴	当院では総合内科、家庭医療、消化器、糖尿病、リウマチ、リハビリテーション、緩和ケアなどの疾患が経験できます。主に経験できる技術・技能は、内視鏡（上部、下部）、エコー（頸動脈、腹部、心臓、乳腺）などです。また、超高齢社会に対応すべく、在宅医療支援センターを院内に設け、訪問診療と併せて在宅医療へ積極的に取り組んでいます。
5）学会認定施設	日本外科学会教育関連施設　日本乳癌学会認定施設　日本プライマリケア連合学会後期研修プログラム認定施設

４．新潟県立妙高病院

1）専攻医へメッセージ	妙高地域(旧新井以外）唯一の病床と開業医の少ない地域でのプライマリ・ケアを実践、経験できます。医療だけでなく、福祉の多職種との連携が密接な当院で、医療福祉の総合的な管理、ケアの方法を楽しく学びましょう。
2）指導医・専門医数	内科指導医１名 プライマリ・ケア指導医１名 総合内科専門医１名 腎臓専門医１名
3）外来・入院患者数	外来：90 名（新患）　　入院：41 名　　（１か月平均）
4）病院の特徴	経験できる疾患群としては、高齢者の肺炎、腎盂炎など感染症、ツツガムシ病などの地域特有の感染症、脳卒中、心不全、不整脈、循環器、脳神経疾患、大腿骨頚部骨折をはじめとする整形外科術後のリハビリ、腰椎圧迫骨折の治療、スキー外傷や小外科など、またマイナー救急疾患が挙げられます。加えて、胃カメラ、エコー、X-P、CT 撮影を一人でできるようになりますし、プライマリ・ケア一般の技能・技術の修得が可能です。 地域医療・診療連携として下記項目も経験していただきます。 ・基幹病院(主に県立中央病院）や開業医(妙高診療所、望月医院)との連携 ・近隣福祉施設(老人福祉施設や特別養護老人ホーム、グループホームなど)との連携 ・訪問診療、隣の特老の嘱託医として定期回診、学校医
5）学会認定施設	無

５．糸魚川総合病院

1）専攻医へメッセージ	糸魚川総合病院は人口約 4 万人の糸魚川市に唯一存在する総合病院であり、救急要請件数のうち約 87%が当院へ搬送されるため、各領域の疾患群をほぼ網羅して経験できます。 消化器疾患に対しては外科との連携により診断から治療に至るまで当院で完結できる体制となっており、循環器に関しては、急性期虚血性疾患の対応から慢性期心不全の管理まで対応しています。そのほか、腎臓内科、内分泌代謝、呼吸器、血液、膠原病領域も外部常勤医による指導のもとで一貫した医療を経験できます。 地域の特性として、複数の疾患を併せ持つ高齢者を診療する機会が多く、そのため専門医療に加えて総合的医療の素養が培われ、主担当医として社会的背景、療養環境調節をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指せるように教育に力を入れています。 定期的に内科合同カンファレンスが開催されています。また、毎週開催される全診療科合同勉強会に参加し、内科のみにとどまらない総合診療研修が可能な環境が整っていることが当院の特色です。
2）指導医・専門医数	内科指導医 4 名 総合内科専門医 4 名 消化器病専門医 4 名 循環器専門医 1 名 消化器内視鏡専門医 3 名
3）外来・入院患者数	外来：10,104 名　　入院：5,425 名　（1 か月平均）
4）病院の特徴	極めてまれな疾患を除けばほぼ全ての疾患群の症例を幅広く経験することができます。また、内科専門医に必要な技術、技能について実症例を通しながら幅広く経験することができます。急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応した地域密着型の医療、病診・病病連携も多数経験できます。
5）学会認定施設	日本内科学会教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本循環器学会/循環器専門医研修関連施設

６．上越総合病院

1）専攻医へメッセージ	「経験できる疾患群」について、研修修了基準を達成するだけの症例を十分確保できます。総合診療科もあるため、総合内科（特にⅠ，Ⅱ）の研修を補完することが可能です。 どの診療科も大所帯ではないため、指導医とマンツーマンに近い状態で研修ができます。臨床研修や教育に病院として力を入れており（例えば臨床研修指導医講習会を自院で開催しています）、教育マインド豊かな指導医とともに充実した研修の日々を送ることができます。
2）指導医・専門医数	内科指導医 11 名 総合内科専門医 11 名 消化器病専門 4 名　日本消化器病学会指導医 2 名 循環器専門医 4 名 腎臓専門医 3 名　日本腎臓病学会指導医 2 名 呼吸器専門 4 名　日本呼吸器学会指導医 2 名

	肝臓専門医 1 名　日本肝臓病学会指導医 1 名 神経内科専門医　2 名　日本神経学会指導医 1 名 アレルギー専門医 3 名 リウマチ専門医 1 名　病院総合診療認定医 1 名 救急科専門医 2 名、消化器内視鏡専門医 3 名、指導医 1 名、胃腸科認定医 1 名、 透析専門医 2 名、認知症専門医 1 名、心療内科専門医・指導医 1 名、 日本プライマリ・ケア指導医 2 名、日本心血管インターベンション治療学会認定医 2 名、心臓リハビリテーション学会指導医 1 名、 人間ドック健診専門医 1 名
3）外来・入院患者数	外来：741.1 名（1 日平均）　　入院：247.9 名（1 日平均）
4）病院の特徴	総合内科Ⅰ～Ⅲ、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病及び類縁疾患、感染症、救急（但し、内分泌、代謝（DM を除く）、血液、膠原病及び類縁疾患、感染症は専門医の常勤がないため、経験不可の項目もある）が経験できる疾患群として挙げられます。 すべての領域で、手技をファーストタッチで経験できます。心臓カテーテル検査、内視鏡検査（上部・下部）、気管支鏡検査、その他各種の手技（気管挿管、CV ライン挿入、胸腔穿刺、腹腔穿刺など）や一部の治療手技（ペースメーカー植込み等）についても技能・技術習得の機会を与えます。 地域医療としては、平素病院連携している地域の小病院・診療所のうち、内科指導医が在籍している施設での研修が可能です。
5）学会認定施設 （内科サブスペシャリティー）	日本内科学会認定専門医教育関連病院 日本呼吸器学会認定病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器専門医研修施設 日本肝臓学会特別連携施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会認定医教育施設 日本リウマチ学会教育認定施設 日本アレルギー学会準教育施設 日本病院総合診療医学会認定施設
学会認定施設 （その他）	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈学会専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本病理学会登録施設 日本東洋医学会教育関連施設

7．けいなん総合病院

1）専攻医へメッセージ	やる気になれば、外科との連携で救急処置が可能です。
2）指導医・専門医数	総合内科専門医 3 名 消化器専門医 3 名 内視鏡専門医 3 名
3）外来・入院患者数	外来：6,526 名　　入院：3,419 名　（1 か月平均のべ患者数）
4）病院の特徴	平成 14 年に一般病床 170 床として新築移転（令和元年 6 月 20 日に 120 床へ変更）、翌年に介護老人保健施設を併設し、地域の基幹病院として急性

	期・慢性期の医療を担い、保健・介護事業も行っています。特に、透析関係、消化器関連の疾患を多く経験できます。内視鏡、救急処置の技術習得が可能です。三次医療としては、県立中央病院が近くにあり、当院が主に一次・二次医療を担う病院という立場での役割分担の中で、地域医療に充分貢献できるものと考え実行しています。
5）学会認定施設	無

８．魚沼市立小出病院

1）専攻医へメッセージ	当院は魚沼圏域の医療再編成により新生したプライマリケアのための病院です。高度医療・専門医療は魚沼基幹病院への窓口となり また在宅への橋渡しをします。地域包括ケアの実現のために、保健・福祉と一体化した包括的な医療を目指しています。総合診療を学ぶのに最も適した施設であると思います。
2）指導医・専門医数	内科指導医 2 名 総合内科専門医 2 名 プライマリケア学会指導医 3 名
3）外来・入院患者数	外来：4,766 名（1 か月平均）　　入院：119.1 名（1 日平均）
4）病院の特徴	プライマリケアとして対応すべき疾患群すべてが経験可能です。特に慢性疾患の重症化予防・高齢者に対する包括的なケアに力を入れています。 主に、慢性疾患重症化予防、高齢者の包括的ケア、地域の健康増進活動、在宅医療の技術・技能を経験できます。 また、市民病院として 医師会と強固な連携のもと 救急から在宅まで一貫した医療を経験できます。また、市行政と協力した地域ベースの健康増進・地域づくり活動も経験できます。
5）学会認定施設	無

９．新潟病院

1）専攻医へメッセージ	当院は脳神経内科の専門病院として脳血管障害、神経変性疾患、筋ジストロフィー、神経感染症、ロボットスーツ HAL を用いたリハビリテーションなど脳神経学の全ての領域において多数の症例を経験できます。脳血管障害は超急性期、回復期、慢性期まで一貫した治療を経験できます。神経変性疾患では遺伝子診断や遺伝カウンセリングなどの先端的な遺伝医療を行なっています。当院は筋ジストロフィー病棟を有し、小児科と脳神経内科が連携して総合的かつ先進的な筋ジストロフィー医療を提供しています。
2）指導医・専門医数	内科指導医 6 名 総合内科専門医 6 名 プライマリケア連合学会認定指導医 1 名 消化器内視鏡専門医 1 名 臨床遺伝専門医 3 名（臨床遺伝指導医 1 名） 神経内科専門医 9 名（神経内科指導医 4 名） 認知症専門医 4 名（認知症指導医 4 名） 呼吸器内視鏡専門医 1 名 老年科専門医 1 名（老年科指導医 1 名） 脳卒中専門医 2 名（脳卒中指導医 1 名） 臨床神経生理専門医 1 名 結核・抗酸菌症指導医 2 名 頭痛専門医 2 名（頭痛指導医 1 名） 禁煙認定指導医 1 名 腎臓専門医 2 名（指導医 2 名）
3）外来・入院患者数	外来：3,394.58 名　　入院：9,610.5 名　（1 か月平均）

4）病院の特徴	脳神経内科領域では脳血管障害、神経変性疾患（遺伝性および非遺伝性）、神経感染症、神経免疫疾患、筋ジストロフィー、脊髄疾患、末梢神経障害を経験可能。神経学的診察技術および基本的検査手技、神経画像読影（CT 、MRI、SPECT 等）、神経リハビリテーションの習得が可能。希望者は DNA シーケンス等の遺伝子診断技術を学ぶことも可能です。 また、当院は総合診療専門医プログラムの基幹施設としてプライマリケアと地域救急医療にも力を入れており、在宅医療後方支援病院として地域医療も充実しています。
5）学会認定施設	日本神経学会専門医制度教育施設　日本専門医機構による総合診療専門研修基幹施設　日本頭痛学会認定准教育施設　日本禁煙学会教育施設　日本臨床神経生理学会認定施設　臨床遺伝専門医制度による研修施設

１０．津南町立津南病院

1）専攻医へメッセージ	津南病院は地域密着型の町立病院です。プライマリ・ケアを学ぶには適しており、訪問診療も積極的に行っています。
2）指導医・専門医数	内科指導医２名 総合診療特任指導医２名 総合内科専門医２名 循環器専門医１名 糖尿病専門医１名
3）外来・入院患者数	外来：180 名　　入院：27 名　（１日平均）
4）病院の特徴	肺炎、急性腹症、脳梗塞、蜂刺し症、熱中症、心不全、高齢者医療の疾患を経験することが可能です。 また、地域医療としては、外来診療、介護施設の回診、救急医療、訪問診療、高次病院との連携などが経験できます。予防医学を基本に介護や終末期医療にも取り組んでいます。
5）学会認定施設	日本糖尿病学会認定教育施設Ⅱ 日本病院総合診療医学会認定施設 日本地域医療学会専門研修プログラム認定施設

１１．新潟県立十日町病院

1）専攻医へメッセージ	①全ての急性疾患を経験できる：十日町圏域唯一の急性期病院として、対象人口約 5 万 5 千人余に対し年間 2200 件前後の救急車受入れ、ER 型救急外来に時間外診療患者 8000 人前後を受け入れている。したがって、この圏域に起こる急性期疾患のほぼ全てが当院を訪れ、幅広い疾患の診療機会に恵まれる。 ②拘束体制が厚い：22 名の常勤医のほとんどが厳冬期・豪雪を前提に、歩いて通勤できる距離に居住しているので、拘束医が呼びやすい。診療科ごとの障壁がなく、お互い様の意識が高い。
2）指導医・専門医数	内科指導医 4 名 総合内科専門 4 名
3）外来・入院患者数	外来：298.5 名　　入院：194.1 名　（１日平均）
4）病院の特徴	①幅広い疾患群：フリーアクセス（紹介状制限がない）の病院で、圏域唯一の急性期病院であるから、外来で診断治療できる急性・慢性疾患のほとんどが経験できる。 ②全ての救急症例：地域発生の救急搬送事案（高齢者の急な腰痛～大動脈解離・多発外傷）のほとんどが経験できる。 ③在宅医療から施設看取り：開業医も少なく、圏域は新潟市の面積を越えているので、在宅医療や介護連携まで経験でき、健康管理としての疾患管理ができる。

	④恵まれた指導医陣：常勤医・派遣医師（新潟大学・魚沼基幹病院）で対応できる範囲。 ⑤協力的な住民：高度医師不足のため、医師の診療に関しては協力的・寛容的な住民感情がある。圏域唯一の急性期病院への敬意を感じる地域性がある。 ⑥協力的・家庭的な医師連携：「最後の砦」を守る共通認識の中、少ない医師で広い圏域、多くの患者を診療する医師が構成する医局の雰囲気は良い。 経験できる地域医療・診療連携：⑦十日町病院は在宅療養後方支援病院として他の医療機関や介護との連携を図り、「うおぬま米ねっと」のメンバーとして情報通信技術（ICT）ネットワークのサーバー管理をしながら在宅・施設看取り等の地域包括ケアシステム推進に大きく寄与している。 ⑧巡回診療：25 年以上前からへき地拠点病院として巡回診療（年 50 回）を継続している。いつでも参加可能。
5）学会認定施設	日本消化器病学会関連施設、日本呼吸器学会関連施設、日本整形外科学会研修施設、日本外科学会修練施設、日本プライマリ・ケア連合学会新家庭医療研修病院、日本専門医機構総合診療専門研修施設、日本手外科学会認定研修施設、日本臨床腫瘍学会連携施設

１２．新潟県立まつだい診療センター

1）専攻医へメッセージ	高齢化率が 54%の地域の急性期医療から慢性期の様々な疾患を経験する事ができます。2026 年度から病棟を廃止したため、入院管理はできませんが、初期治療から重症症例の高次病院へのコンサルトを行っていただきます。医療資源が限られた地域で、できるだけ地域内で医療を完結させるのがポイントです。
2）指導医・専門医数	内科指導医及び総合内科専門医：１名 総合診療専門医：1 名、特定指導医：1 名 地域総合診療専門医及び指導医：1 名 呼吸器専門医及び指導医：1 名 プライマリケア指導医：１名 アレルギー専門医：１名 リハビリテーション専門医：1 名
3）外来・入院患者数	外来：1，270 名　　入院：621 名　（１か月平均）
4）病院の特徴	豪雪中山間部の地域の包括ケアと医療の拠点であり、定期外来の他、訪問診療や特別養護老人ホームの嘱託医として地域医療の現状に触れる事ができます。予防医療として禁煙外来や近隣小中学校への出前授業も行っています。不便な場所かもしれませんが、総合的な診療力を高めるには格好の診療所です。ともに学んでいきましょう。
5）学会認定施設	無

１３．見附市立病院

1）専攻医へメッセージ	市内唯一の入院体制の整った病院として、９４床の小規模病院ではあるが、軽症急性期、慢性期患者診療のほか、疾病の予防や健康の維持増進など、市と連携して地域医療と市民の健康増進の中核施設の役割を果たしています。
2）指導医・専門医数	内科指導医・専門医　１名 総合内科専門医　２名 循環器専門医　１名 腎臓専門医　１名

	糖尿病専門医　1名 老年病専門医　2名 麻酔科指導員・専門医　1名 消化器指導医・専門医　1名 消化器専門医　1名 消化器内視鏡指導医・専門医　1名 肝臓専門医1名
3）外来・入院患者数	外来：3,345名　　入院：2,675名　（1か月平均）
4）病院の特徴	地域医療として多岐にわたり、対応できる総合的な疾患、地域住民への予防疾患を中心に診療を行っています。 地域医療全般にわたる総合診療、高齢者医療、そして救急医療を中心に活躍できる医師としての知識と技術の習得を目指します。 地域一般病院としての総合診療、救急医療を中心に患者の治療を行っている。専門医のいる病院への紹介・連携を円滑に行っています。また、地元医科診療所との連携も緊密に行っています。 2022年より訪問診療を開始しました。
5）学会認定施設	日本外科学会外科専門医制度関連施設

１４．魚沼基幹病院

1）専攻医へメッセージ	魚沼基幹病院は、新潟県魚沼地域における救命救急医療や高度医療の提供を目的に、2015年6月に新潟県南魚沼市浦佐に開院しました。本院では、通常の診療の他に、新潟大学地域医療教育センターのもと、医学部学生、研修医、および専攻医などの教育を行うことに加え、臨床研究を行うことが大きな特徴です。内科には13のサブスペシャリティがありますが、ほとんどの内科医はいずれこのどれかのサブスペシャリティの専門医となります。内科専攻医研修だけでしたら多くの医療機関でできますが、臨床研究を指導できる施設は多くありません。内科専攻医研修としての診療と研究を同時に行う楽しさを、当院で是非味わってみてください。
2）指導医・専門医数	総合内科指導医・専門医６名 総合内科専門医5名 循環器専門医1名 内分泌指導医・専門医1名 腎臓指導医・専門医2名 腎臓専門医1名 肝臓指導医・専門医2名 肝臓専門医1名 透析指導医・専門医1名 透析専門医1名 糖尿病指導医・専門医1名 呼吸器指導医・専門医２名 消化器病指導医・専門医2名 消化器病専門医2名 内視鏡専門医4名 神経内科指導医・専門医2名 神経内科専門医1名
3）外来・入院患者数	外来総患者数：200,016名　　入院延患者数：132,701名
4）病院の特徴	内科関連13サブスペシャリティのうち、消化器病学会、肝臓学会、循環器学会、内分泌学会、糖尿病学会、腎臓学会、呼吸器学会、神経学会、アレルギー学会、感染症学会、および老年医学会に関連する疾患を経験することができます。リウマチ学会に関連する疾患については、症例に応じて大

	学からの出張医の指導を受けることが可能です。 基本的な診療技能(医療面接・身体診察・検査手技・治療手技)を身につけることはもちろん、血液学会を除く内科関連サブスペシャリティの全てに渡る技術・技能を経験することが可能です。具体的には、代表的な検査手技として消化器内視鏡、呼吸器内視鏡、心臓カテーテル検査などに加えて、各種画像診断、病理診断なども経験することができます。また、臨床研究の進め方、日本語・英語での発表の仕方、英文論文の書き方と投稿方法などについても経験できることが大きな強みです。 魚沼基幹病院の整備に伴い、県立小出病院は魚沼市立小出病院に、県立六日町病院は南魚沼市民病院にそれぞれ生まれ変わりました。これに加えて従来からの県立十日町病院などを含めて、魚沼地域にある複数の医療機関があたかも一つの病院のように機能しています。このようにすることで、地域の医療資源を最大限に活用した地域医療・診療連携を経験できるのが特徴です。

１５．南魚沼市民病院

1) 専攻医へメッセージ	訪問看護ステーション、包括支援センター、特別養護老人ホームなどと連携し、地域住民の予防と福祉を含めた、地域包括医療（総合医療）を推進しています。
2) 指導医・専門医数	内科指導医 2 名 総合内科専門医 2 名 日本腎臓学会専門医 1 名 日本透析医学会専門医 2 名
3) 外来・入院患者数	外来：11,111 名　　入院：4,015 名　　（1 か月平均）
4) 病院の特徴	南魚沼市民病院は、2015 年 11 月 1 日に開院した新しい病院です。魚沼地区の医療再編事業により、県立六日町病院の跡地に南魚沼市民病院が開院しました。地域医療に特化した病院として、訪問診療、訪問看護、回復期リハビリに力点をおいた医療機関です。2026 年 4 月 1 日には、敷地内に健診施設「ゆきぐに健友館 AI」を開設し、予防医療や健康増進にも力を入れています。
5) 学会認定施設	日本腎臓学会　日本透析医学会

１６．小千谷総合病院

1)専攻医へメッセージ	小千谷市の一次、二次救急、ならびに長岡市にある基幹 3 病院(長岡日赤、立川、長岡中央)からの慢性期の患者を受け入れ、地域医療連携を実践している第一線病院です。地域医療に熱意のある方の応募をお待ちしております。
2)指導医。専門医数	内科指導医 1 名 消化器病指導医 1 名 総合内科専門医 2 名 消化器病専門医 3 名 消化器内視鏡専門医 1 名 肝臓専門医 2 名 循環器専門医 1 名
3)外来・人院患者数	外来患者：610 名（1 日平均）　人院患者：174 名(1 日平均)

4)病院の特徴	一般内科的疾患、消化器疾患を主に経験できます。 腹部超音波検査、上部ならびに下部消化管内視鏡検査、ポリペクトミ肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術、エコー下肝生検、CV カテーテル挿人、PTGBD などの技能について経験可能です。 長岡市にある基幹 3 病院(長岡日赤、立川、長岡中央)からの慢性期の患者を受け人れ、地域医療連携を実践しています。
5)学会認定施設	日本消化器病学会認定施設日本 消化器内視鏡学会指導施設日本 腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設

１７．柏崎総合医療センター

1) 専攻医へメッセージ	まず「病気」ではなく「病気をかかえた人」を診ることの重要性を理解しましょう。それが理解できれば、将来サブスペシャリティ専門医になるとしても「内科医」の視点で患者を診ることの大切さがわかるはずです。
2) 指導医・専門医数	内科指導医 4 名 総合内科専門医 5 名 内科専門医 3 名 消化器病専門医 4 名 消化器内視鏡専門医 3 名 肝臓専門医 2 名 循環器専門医 1 名 内分泌代謝専門医 1 名 糖尿病専門医 1 名 血液専門医 1 名 腎臓専門医 1 名 透析専門医 1 名 がん薬物療法専門医 1 名
3) 外来・入院患者数	外来：627 名（1 日平均）　　入院：262 名（１日平均）
4) 病院の特徴	消化器、循環器、内分泌代謝、腎臓、血液、呼吸器のほぼ全ての疾患群を経験できます。また、習得すべき技術・技能のほぼ全てを経験できます。地域の唯一の総合病院のため、地域医療を通して質の高い専門研修を行う事ができます。
5) 学会認定施設	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本肝臓学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本血液学会専門研修教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本臨床腫瘍学会認定研施設 日本がん治療認定研修施設 日本心療内科学会登録研修施設

１８．済生会三条病院

1）専攻医へメッセージ	「新潟県済生会三条病院」は済生会の全国 99 病院のひとつとして新潟県の県央地域にあり，急性期病棟、地域包括医療病棟、地域包括ケア病棟の３つの病棟のほか、人工透析室、検診センターも有し，加えて、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、~~保育園~~、~~病児病後児保育~~、療育サポートセンターなど多くの関連施設を併設して地域の医療・保健・福祉を担っています．新潟大学医歯学総合病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います.
2）指導医・専門医数	日本内科学会指導医 1 名 日本内科学会総合内科専門医 3 名 日本消化器病学会消化器病専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器内科専門医 1 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1 名 日本腎臓学会腎臓専門医 1 名 日本透析医学会透析専門医 1 名
3）外来・入院患者数	外来：6,780 名　入院：3,179 名　（1 か月平均）
4) 病院の特徴	消化器内科、腎臓内科、呼吸器内科の疾患を主として内科全般の疾患群を経験できます。 また、経験可能な技術・技能としては、血液透析、ＰＴＡ、腹水濾過濃縮再静注、上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡、ERCP、腹部超音波検査、PTCD、PTGBD、TACE、食道静脈瘤に対する EIS、EVL、気管支内視鏡、胸腔ドレナージ、進行がんに対する化学療法などがあります。 地域医療においては、訪問看護ステーション、老人保健施設、特別養護老人ホーム等を併設し、保健・医療・介護・福祉の連携や総合的なサービスの提供について経験することができます。
5) 学会認定施設	日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本緩和医療学会認定研修施設

１９．長岡中央綜合病院

1）専攻医へメッセージ	臨床研修で獲得した基本的知識・技術を更に高めるための時間です。自ら専攻した分野でエキスパートになるためには、その周辺分野の知識が必要です。臨床の第一線で、たくさんの患者さんに触れ、多くの経験を積んでください。充分に力をつけ、力を遺憾なく発揮できる場をみつけてくれることを願っています。病院をあげてそれを応援します。
2）指導医・専門医数	内科指導医 19 名 総合内科専門医 12 名 消化器病専門医 5 名 循環器専門医 2 名 内分泌代謝科専門医 1 名 糖尿病専門医 1 名 呼吸器専門医 2 名 血液専門医 1 名 神経内科専門医 5 名
3）外来・入院患者数	外来患者　1,065　名（1 日平均）入院患者　384　名（1 日平均）
4）病院の特徴	13 領域、70 疾病群はもちろんのこと、急性期から回復期に至るまで幅広く、多くの疾患に触れることができます。 また、技術・技能評価の対象となる内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

5）学会認定施設	日本内科学会　日本消化器病学会　日本消化器内視鏡学会　日本循環器学会　日本糖尿病学会　日本血液学会　日本透析医学会　日本腎臓学会日本臨床腫瘍学会　日本高血圧学会　日本認知症学会　日本がん治療認定機構日本大腸肛門学会　日本肝胆膵外科学会　日本食道学会　日本脳卒中学会

２０．長岡赤十字病院

1）専攻医へメッセージ	長岡赤十字病院は中越地区の基幹病院であり、内科領域は救急から腫瘍及び高齢者疾患まで種々の急性期疾患を経験できます。指導医が充実しており、各種検討会や学会参加も活発ですし、多職種連携による医療に力を入れております。専攻医のみなさんと共に学び働くのを病院挙げて心よりお待ちしております。
2）指導医・専門医数	内科指導医 17 名 総合内科専門医 21 名 消化器病専門医 6 名 循環器専門医 3 名 内分泌専門医 2 名 糖尿病専門医 2 名 腎臓専門医 3 名 呼吸器専門医 5 名 血液専門医 3 名 神経内科専門医 5 名 リウマチ専門医 2 名 感染症専門医 1 名 肝臓専門医 3 名
3）外来・入院患者数	外来：1,634 名　　入院：1,214 名　（1 か月平均）
4）病院の特徴	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域・70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

5）学会認定施設	日本感染症学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構研修施設 日本血液学会研修施設 日本高血圧学会認定施設 日本呼吸器学会呼吸器内科領域専門研修制度連携施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本神経学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本造血幹細胞移植学会移植認定施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内科学会教育病院 日本内分泌学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会研修施設 日本胆道学会指導施設

２１．立川綜合病院

1）専攻医へメッセージ	高野　弘基 【内科専攻医へのメッセージ】 立川綜合病院は新潟県の中越地域の中核３病院の１つとして救急および専門医療に貢献しております。特に心・血管領域において内科・外科問わず際だった実績を有しております。
2）指導医・専門医数	日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本神経学会認定神経内科専門医３名、日本アレルギー学会専門医(呼吸器) 1 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本循環器学会専門医 9 名
3）外来・入院患者数	外来患者 882.6 名（1 日平均）　入院患者 321.6 名（1 日平均）
4）病院の特徴	・きわめて稀な疾患を除いて循環器内科 10 群の全て、腎臓内科７群の全て、呼吸器内科８群の全て、および神経内科の９群の全ての疾患群が経験可能です。 ・急性期医療だけでなく関連施設の悠遊健康村病院では回復期、慢性期、在宅医療、介護に加え、それらに関する病診・病病連携を経験することができます。
5）学会認定施設（内科サブスペシャリティ）	日本神経学会専門医制度認定教育関連施設、日本呼吸器学会認定施設、日本腎臓学会認定研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

２２．あがの市民病院

1）専攻医へメッセージ	一般・救急外来、病棟診療を通して経験できる疾患は多岐にわたっています。患者さんの訴えの多くに対応できるようになります。急性期・回復期・在宅医療、予防医療、多職種連携、包括的医療を実践する総合内科、地域包括医療・ケアに対する学びを指導医と共に深めていきましょう。地域医療を勉強する初期臨床研修医もいます。日々成長していきましょう。

2）指導医・専門医数	内科指導医 3 名 総合内科専門医 4 名
3）外来・入院患者数	外来：8,614 名　　入院：3,752 名　　（1 か月平均）
4) 病院の特徴	人口 3.8 万人の阿賀野市の唯一の総合病院で、急性期病床、地域包括ケア病床、介護医療院、訪問看護ステーション、健康管理センター、老人保健施設を合わせ持ち、予防医療、急性期から慢性期、在宅医療までシームレスに提供する医療、地域包括医療・ケアを実践できます。また、４つのセンター機能（消化器病センター、糖尿病・生活習慣病予防治療センター、骨関節疾患センター、地域医療・連携センター）に一般循環器病センターを加え、透析、呼吸器診療、外科診療などの専門的医療を提供しています。
5) 学会認定施設	日本地域医療学会　地域総合診療専門研修　認定施設 全国国民健康保険診療施設協議会　地域包括医療ケア認定施設 日本病院会　病院総合医　施設 日本呼吸器学会　関連施設 日本アレルギー学会　準認定教育施設 日本消化器病学会　関連認定施設 日本透析医学会　教育関連施設 日本東洋医学会　認定施設 日本外科学会　関連施設 日本消化器外科学会　関連施設 日本整形外科学会　関連施設

２３．新潟県立津川病院

1）専攻医へメッセージ	当院は救急告示もしていますが、月間約 60 件の訪問診療も行っています。在宅看取りも年間 4 件程度行っています。総合内科医としての研修及び在宅医療分野での十分な経験が積めると思います。
2）指導医・専門医数	日本内科学会指導医　1 名，プライマリ・ケア連合学会認定指導医 1 名， 日本内科学会総合内科専門医　3 名， 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名，臨床研修指導医 4 名
3）外来・入院患者数	外来：2,034 名　　入院：939 名　（1 か月平均）
4）病院の特徴	〔経験可能な疾患群〕 高血圧症、糖尿病、その他の成人病、呼吸器ほぼ全般、アレルギー全般、心不全、尿路感染症、胆道感染症、認知症、骨粗鬆症、廃用性症候群、寝たきり合併症 〔経験可能な技術・技能〕 喘息患者管理、人工呼吸器管理、NPPB 管理、胸腔ドレーン管理、認知症患者診療、圧迫骨折患者診療、褥瘡患者診療 〔地域医療〕 訪問診療、巡回診療、在宅看取り、施設での看取り、検死、ナイトスクール、町診療所との連携会議
5）学会認定施設	無

２４．新潟県立加茂病院

1）専攻医へメッセージ	一般内科医として、日常の診療に参加してもらいます。予約外来をはじめとして、時間外受診・新患外来・救急搬送患者への対応など、あらゆる現場で、様々な疾患に対応します。地域密着型病院として、専門領域は持た

	ず、総合診療医として、診療にあたります。患者層は主に高齢者であり、単一の疾患での入院はありません。常に多くの合併症を有しており、基本脆弱な人が多く、日々変化する病状に注意を払う必要があります。併せて、リハビリが大切で、入院したその日から、リハビリを行い、元の生活へ一日も早く戻れるようにサポートしています。患者さんの生活状況や生活史の聴取は何よりも大切で、生活支援のため、治療のためにもそれが大切なことに気づかされる毎日です。病院の窓からは決して見ることのできない世界を、見ることができる病院研修にしてほしいと願っています。
2）指導医・専門医数	指導医　計 3 名 日本内科学会指導医　内科　1 名 日本ﾌﾟﾗｲﾏﾘ･ｹｱ連合会学会指導医　ﾌﾟﾗｲﾏﾘ･ｹｱ　1 名 日本消化器病学会指導医　消化器病　1 名、 専門医　計 13 名 日本内科学会専門医　総合内科医　3 名 日本消化器病学会専門医　消化器病　1 名 日本消化器内視鏡学会専門医　消化器内視鏡　1 名 日本ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学会専門医　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ　1 名 日本産婦人科学会専門医　産婦人科　1 名 日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会専門医　臨床遺伝　1 名 日本外科学会　外科　3 名 日本消化器外科学会　消化器外科　2 名
3）外来・入院患者数	外来：2,577 名　　入院：1,770 名　（延べ患者数 1 か月平均）
4）病院の特徴	令和 6 年 4 月 1 日から社会医療法人崇徳会が県立加茂病院の指定管理者となり、加茂病院の経営を担うことになりました。 新潟の県央地区で地域住民の方の高齢化も進む中、『医療・介護・福祉の連携を進め、人に寄り添い、地域の方々の命と健康を守ることに努め、皆が安心して暮らせる“まち”をつくること』を目標にしています。 その達成のために、①予防医療の推進、②地域包括ケアの充実、③仕事に誇りとやりがいを感じられる職場作り、を基本方針に掲げました。入院では、軽症から中等症の急性期疾患や県央基幹病院での超急性期を過ぎた患者さんの在宅までの総合的医療などを担います。　外来では従来の診療科に加えて認知症・精神科医療などを強化し、患者さんの抱える障がいや疾病の悪化予防・健康維持管理に努めます。また、“出前講座”など健康や介護予防などに資する活動も取り組みます。
5）学会認定施設	−

２５．佐渡市立両津病院

1）専攻医へメッセージ	少人数の医師で、佐渡の東側の医療を担当しています。専門性に偏らず、総合的に診ることができる医療を目指しています。小児科の常勤医もおり、0 歳児から 100 歳を超える高齢者まで、幅広く見ています。高齢者が多いですが、一般内科医としての基本的な事は学べると思います。是非、研修にきてください。
2）指導医・専門医数	総合内科専門医 2 名　内科指導医 2 名
3）外来・入院患者数	外来：3,760 名　　入院：1,590 名　（1 か月平均）
4) 病院の特徴	高齢者を中心に、肺炎、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、胸膜炎、膿胸などの呼吸器疾患。気道感染、尿路感染、消化器疾患等の感染症。消化性潰瘍、腸閉塞、消化管ポリープ等の消化器疾患。心不全、心房細動等の循環器疾患。貧血の精査。糖尿病、脂質異常症などの代謝疾患等々、一般内科疾患を経験できます。

	技術としては、上部下部消化管内視鏡、気管支鏡、腹部エコー、心エコー、ＣＴ読影、胸腔穿刺、腹腔穿刺等の検査、消化管内視鏡的治療、胃瘻造設、イレウス管挿入、中心静脈路確保、気管内挿管、DC ショック等、蘇生処 置一般が経験可能です。 地域医療・診療連携においては、無医地区への巡回診療、自宅療養者への訪問診療を行っています。乳児健診、学校健診、職場健診、人間ドック等地域の健康予防的な活動も行っています。
5) 学会認定施設	無

２６．新潟県立新発田病院

1) 専攻医へメッセージ	新潟県立新発田病院は、新潟県下越医療圏の中心的な急性期病院であり、下越医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。2025 年 4 月から県立リウマチセンターが統合されたため、膠原病・リウマチの研修も可能になりました。
2) 指導医・専門医数	内科指導医 ~~19~~ 名 21 名 総合内科専門医 ~~16~~ 名 18 名 消化器病専門医 ~~6~~ 名 8 名 循環器専門医 ~~4~~ 名 3 名 内分泌代謝科専門医 1 名 糖尿病専門医 1 名 腎臓専門医 ~~3~~ 名 4 名 呼吸器専門医 4 名 血液専門医 1 名 脳神経内科専門医 3 名 感染症専門医 1 名 消化器内視鏡専門医 ~~5~~ 名 6 名 透析専門医 1 名 肝臓専門医 ~~2~~ 名 3 名 心血管インターベンション治療専門医 2 名 脳血管内治療専門医 2 名 認知症専門医 1 名 脳卒中専門医 ~~2~~ 名 1 名
3) 外来・入院患者数	外来：6,989 名　　入院：4,491 名　（1 か月平均）
4) 病院の特徴	新潟県北部に位置し、新発田・村上地区の広域基幹病院として高次医療を担当している病院です。きわめて稀な疾患を除き、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。また、技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
5) 学会認定施設	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 栄養サポートチーム専門療法士実地修練施設

	日本血液学会認定専門研修認定施設 日本認知症学会教育施設 日本感染症学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本脳卒中学会一次脳卒中センター認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本リウマチ学会教育施設

２７．新潟県立吉田病院

1）専攻医へメッセージ	問題解決能力を身につけられる医師を目指してほしい。
2）指導医・専門医数	内科指導医師１名、日本内科学会総合内科専門医１名、日本消化器学会指導医１名・専門医３名、日本消化器内視鏡学会指導医１名・専門医３名、日本肝臓学会専門医１名、
3）外来・入院患者数	外来：5,500 名　　入院：2,300 名　（１か月平均）
4）病院の特徴	県央地区の交通の要衝、燕市（旧吉田町）に位置し、地域中核病院として、「地域に信頼され愛される病院」を基本理念に、患者中心の医療、良質で安全な医療・看護、他の医療施設と連携しての地域完結型の医療の提供に努めています。専攻医として、消化器疾患は広く経験でき、胃、食道、大腸のＥＳＤ、上部消化管拡大内視鏡、ＥＲＣＰ関連手技（EST.ENBD を含）ＥＵＳおよびＦＮＡなどの技術を経験可能です。
5）学会認定施設	日本消化器学会認定施設　日本消化器内視鏡学会指導連携施設

２８．済生会新潟県央基幹病院

1）専攻医へメッセージ	済生会新潟県央基幹病院は、令和６年３月１日に新規開院しました。 それぞれの専攻医の皆さんのニーズに合わせ、希望や能力に合わせた研修を、病院全体で総力をあげて提供します。
2）指導医・専門医数	指導医：内科４名、消化器病１名、神経内科１名、腎臓内科１名、血液内科１名 専門医：総合内科 14 名、 内科２名、呼吸器１名、感染症１名、気管支鏡１名、消化器内視鏡２名、肝臓１名、消化器病４名、神経内科３名、循環器２名、腎臓２名、糖尿病１名、血液２名
3）外来・入院患者数	外来：307 名/日　　入院：3,587 人/年（内科のみ）
4) 病院の特徴	内科領域ほぼすべての疾患が経験可能です。総合診療科を中心に内科全般の新患外来の経験を積むことができ、そこから入院診療へつなげて研修が可能です。県内で初めての ER 診療も開始しました。救急と関連した内科疾患も豊富に経験できます。また各科ともに積極的に救急も含めた内科診療を実施しており、全人的・総合的な内科診療の経験ができます！
5) 学会認定施設	日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設、日本感染症学会認定研修施設、がん治療医認定研修施設、 日本神経学会専門医制度准教育施設、循環器専門医研修関連施設、日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本乳癌学会関連施設、放射線科専門医修練機関、日本麻酔科学会認定病院

２９．新潟県立がんセンター新潟病院

1）専攻医へメッセージ	がんは日本人の死因の第一であり、がんは特殊な疾患ではなく、最も克服すべき common disease として認識されています。がん診療は、その一次予防、二次予防、早期診断、早期治療、殺細胞性、抗がん剤・分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬を含めた薬物療法、内視鏡的治療、放射線治療、外科手術及び緩和医療など、様々な分野に渡る戦略があり、これらを

	総合的に結び付けるためには、あらゆる分野に精通した内科専門医によるチーム医療の実践が必須です。 さらに、がん診療は基礎疾患・合併症・副作用を克服する能力が要求される分野でもあり、まさに内科専門研修を実践する上で最もユニークかつ合理的な研修が可能です。当院での内科専門研修は有意義な研修となることを確約します。
2）指導医・専門医数	一般社団法人日本内科学会総合内科専門医 12 名、 一般社団法人日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、 一般社団法人日本循環器学会循環器専門医 1 名、 一般財団法人日本消化器病学会消化器病専門医 9 名、 一般社団法人日本胆肝膵外科学会高度技能専門医 1 名、 一般社団法人日本胆肝膵外科学会高度技能指導医 1 名、 一般社団法人日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 7 名、 一般社団法人日本肝臓学会専門医 5 名、 一般社団法人日本東洋医学会漢方専門医 3 名、 特定非営利活動法人日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1 名、 特定非営利活動法人日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名、 特定非営利活動法人日本臨床腫瘍学会がん薬物療法指導医 3 名、 日本内科学会指導医 9 名、 日本消化管学会胃腸科専門医 1 名、 日本胆道学会認定指導医 2 名、 日本食道学会食道科認定医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器指導医 2 名、
3）外来・入院患者数	外来：　17,715 名（1 ヵ月平均、R7 年度　実数） 入院：　7,983 名（1 ヵ月平均、R7 年度　実数）
4）病院の特徴	がんの診療と研究に重点を置いた病院として運営されていますが、10 病院を数える新潟県立病院における基幹病院の一つとして、総合的診療機能を併せ持っています。内科各臓器分野すべての悪性疾患の診断・治療が経験可能ですが、がん治療のみならず、一般的内科疾患や高齢者診療など、幅広い診療が経験可能です。また、新規抗がん剤の臨床治験が多数実施されています。内科関連 13 サブスペシャリティのうち、消化器病、肝臓、内分泌、糖尿病、呼吸器、血液の各学会に関連する疾患を経験することができます。 全ての内視鏡系検査・治療、造血幹細胞移植治療、内科全ての分野の生理検査、観血的検査、などの技術習得が可能です。
5）学会認定施設	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、 日本呼吸器学会認定施設　呼吸器内視鏡認定施設、 日本感染症学会認定施設、 日本アレルギー学会認定施設、 日本臨床腫瘍学会認定施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、 日本臨床腫瘍学会、 日本神経学会認定教育施設、 脳卒中学会研修教育病院、 日本糖尿病学会、 日本消化器病学会認定施設、 日本肝臓学会認定施設、 日本消化器内視鏡学会指導施設、 日本内分泌学会、 日本動脈硬化学会、 日本臨床腫瘍学会、 日本輸血細胞治療学会、

	日本造血細胞移植学会

３０．新潟市民病院

1）専攻医へメッセージ	新潟市民病院は、救急救命センター、循環器病・脳卒中センターを有し、人口 100 万人の新潟医療圏における救急、専門、重症患者を担う基幹病院です。各内科診療科には、複数の専門医、指導医が揃い、高度な医療水準を維持しつつ、common diseases を含め豊富な症例を経験することができます。充実した指導体制のもとで当院の理念である「患者とともにある全人的な医療」を実践しつつ充実した研修をお約束いたします。
2）指導医・専門医数	日本内科学会指導医は 32 名で、専門医数は以下となります。 日本内科学会総合内科専門医 38 名、 日本消化器学会消化器専門医 8 名、日本肝臓学会肝臓専門医 7 名、 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 8 名、 日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本不整脈心電学会専門医 4 名、 日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名、 日本血液学会血液専門医 1 名、日本ペインクリニック学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本感染症学会感染症専門医 2 名、 日本アレルギー学会専門医 1 名、 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名、 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 9 名、日本頭痛学会頭痛専門医 2 名、 日本認知症学会認知症専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名、日本高血圧学会高血圧専門医 1 名、 日本透析学会透析専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 9 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、 日本緩和医療学会専門医 1 名　ほか
3）外来・入院患者数	2025 年度（令和 7 年度） 内科系外来患者数　102,078 人/年（延人数） 内科系入院患者数　8,018 人/年（実患者数）
4）病院の特徴 研修環境	1)専攻医の環境： ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・令和 4 年度から専門研修支援室が新設され、専攻医の専門研修プログラム支援・労務管理などを行います。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・敷地内に病児保育所があり、利用可能です。 2)専門研修プログラムの環境： ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付

	け、そのための時間的余裕を与えます。 3）学術活動の環境： ・臨床研究支援室を設け、定期的に研究デザイン/統計の相談を受けています。 ・図書室に 2 名図書司書を配属し、文献の取り寄せを受けています。図書は約 10,000 冊、購読雑誌は、和文約 50 タイトル、欧文約 5 タイトルで他寄贈雑誌も多数あります。UpToDateAnywhere に加入し、電子ジャーナルは欧文が ClinicalKey、和文は「医書.jp」「メディカルオンライン」を使用しています。 ・臨床倫理支援室を設置し､担当医から出される倫理的問題に対応しています。 ・治験管理室を設置し､定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 5～8 演題の学会発表をしています。
5）学会認定施設 内科系	日本内科学会・日本専門医機構　内科領域専門研修プログラム認定施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本輸血・細胞治療学会　Ｉ＆Ａ制度認定施設 日本輸血・細胞治療学会臨床輸血看護師制度指定研修施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会専門医教育関連施設 日本リウマチ学会教育施設 日本高血圧学会専門医認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本頭痛学会認定教育施設 日本認知症学会教育施設 日本臨床神経生理学会認定施設　（準教育施設：脳波分野、筋電図・神経伝導分野） 日本呼吸器学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本肝臓学会専門医認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本門脈圧亢進症学会技術認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 IVL システム施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 補助人工心臓治療関連学会協議会ＩＭＰＥＬＬＡ補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本不整脈心電学会経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術実施施設(クライオバルーン) 日本不整脈心電学会経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術実施施設（POLAR x 冷却アブレーションカテーテル) 日本不整脈心電学会パルスフィールドアブレーション［Pulse Select］ 日本不整脈心電学会パルスフィールドアブレーション［VARIPULSE］ 日本不整脈心電学会パルスフィールドアブレーション［FARAPULSE］ 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設

	トランスサイレチン型心アミロイドーシスに対するビンダケル導入施設 日本不整脈心電学会パワードシースによる経静脈的リード抜去術施設認定 日本超音波医学会超音波専門医研修連携施設 日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 経カテーテル的心臓弁治療関連学会　経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 日本栄養治療学会 NST(栄養サポートチーム)稼働施設 日本栄養療法推進協議会認定 NST（栄養サポートチーム）稼動施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本病院総合診療医学会 病院総合診療専門医研修施設プログラム 総合診療専門医検討委員会・日本専門医機構　総合診療領域専門医研修プログラム 日本緩和医療学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 など

３１．西新潟中央病院

1) 専攻医へメッセージ	当院は国立病院機構に属する病院で、神経系と呼吸器系の専門病院です。内科は呼吸器内科と脳神経内科の２科が中心となっており、各々の科の専門医が多数在籍しています。両科共、新潟医療圏で最大級のベッド数を有しており、幅広い疾患を対象とした診療を行っています。 呼吸器系では結核病棟、神経系では神経難病の専門病棟があり、豊富な症例を経験できます。また呼吸器外科、麻酔科、放射線科、整形外科、神経小児科、脳神経外科、精神科との連携も良く、希望に応じて幅広い分野の知識・技能の習得が可能です。学会発表や論文作成の機会も豊富です。
2) 指導医・専門医数	日本内科学会総合内科指導医　4名、日本呼吸器学会指導医　2名 日本神経学会神経内科指導医　3名、日本結核・非結核性抗酸菌症学会認定結核・抗酸菌症指導医　1名、日本呼吸器内視鏡学会指導医　1名、 、日本認知症学会指導医　1名、日本内科学会総合内科専門医 9名、日本呼吸器学会専門医　5名、日本神経学会神経内科専門医　6名、日本呼吸器内視鏡学会専門医　1名、日本感染症学会専門医　1名、日本人類遺伝学会専門医　1名、日本認知症学会専門医　1名、日本てんかん学会認定てんかん専門医　1名、日本アレルギー学会アレルギー専門医　1名
3) 外来・入院患者数	外来：258.1名　　入院：328.7名　（1日平均）
4) 病院の特徴	神経系と呼吸器系に特化した専門性の高い 11 のセンターで構成され、それぞれが内科・外科合同のチーム医療を実践し、新しい治療体系の構築を目指し、機能回復を重視したリハビリテーションも積極的に組み入れています。主に経験可能な疾患群と、技術・技能を下記に挙げます。 【疾患群】呼吸器：肺炎・呼吸器感染症、結核、気管支喘息、COPD, 間質性肺炎、呼吸不全、肺がん・腫瘍、アレルギー、睡眠時無呼吸症候群等 神経：脳血管障害、認知症、パーキンソン病関連疾患、ALS,MSA 等の神経難病、代謝疾患、ミオパチー・筋ジストロフィー、免疫性神経疾患、末梢神経障害、頭痛関連等 【技術・技能】呼吸器：気管内挿管、動脈採血、呼吸管理、酸素療法、人工呼吸器管理、NPPV、栄養管理、胸部Ｘ線読影、気管支鏡、気管支肺胞洗浄、経気管支生検、胸腔穿刺、胸腔ドレナージ 神経：神経学的診察法の習得、脳波・誘発電位・神経伝導速度・筋電図検査、腰椎穿刺、画像検査、神経心理検査、筋生検、神経生検、ボトックス注、DBS 刺激調整 地域医療・診療連携については、地域支援病院として病診連携を行っています。訪問診療の実施、新潟県難病相談支援センターを介した多職種連携を経験できます。
5) 学会認定施設	内科専門研修プログラム連携施設　日本呼吸器外科学会基幹施設　日本呼

	吸器学会認定施設　日本外科学会外科専門医制度関連施設　日本呼吸器内視鏡学会認定施設　日本胸部外科学会指定施設　神経内科専門研修プログラム連携施設　脳神経外科専門研修プログラム連携施設　日本小児神経学会専門医研修認定施設　日本てんかん学会研修施設（精神科、小児科、脳神経外科）　日本睡眠学会認定施設　　日本栄養療法推進協議会 NST 稼動認定施設

３２．新潟県立坂町病院

1）専攻医へメッセージ	地域中核として典型的な病院で、様々な内科的疾患群を経験する事ができます。症例が豊富で、頻度の高い疾患ほど診療する機会が多く、実践能力を養えます。 内科専門間の垣根は低く、複合的な疾患を専門的な視点から主導的に診る経験ができます。当科勤務医はサブスペシャリストとしての経験及び技量が豊富で、希望すればさまざまな実践ができます。
2）指導医・専門医数	総合内科専門医　２名 日本神経学会　指導医　１名 日本認知症学会　指導医　１名 日本プライマリー学会 指導医　１名 総合診療　特任指導医　１名 ICD（ｲﾝﾌｪｸｼｮﾝ・ｺﾝﾄﾛｰﾙ・ﾄﾞｸﾀｰ）　１名 日本糖尿病学会　専門医　１名 日本腎臓学会腎臓　専門医　１名 日本透析医学会透析　専門医　１名 日本アレルギー学会アレルギー専門医（小児科）　１名 日本専門医機構小児科専門医　１名　（延べ数）
3）外来・入院患者数	（内科のみ）外来：3,001 名　入院：1,165 名　（年間）
4）病院の特徴	村上市近隣市町村の公的医療の中核を担っている病院であり、心不全、呼吸不全、腎不全を併発した重症疾患、肺炎、気管支喘息、糖尿病、胃潰瘍等、頻度の多い疾患、フレイル、衰弱、廃用症候群のリハビリ等、高齢者疾患を診ることができる。 また、各種カテーテル挿入、挿管、人工呼吸管理等の全身管理、上部・下部消化器内視鏡、気管支鏡、腹部・心臓超音波、運動負荷心電図など、各種検査実技、透析医療も経験が可能。 地域に密着した病院を目指し、訪問診療などにも取り組んでいる。

３３．佐渡総合病院

1）専攻医へメッセージ	当院は、地域中核病院であり、島民の救急医療から慢性期のフォローまですべて研修できます。
2）指導医・専門医数	内科指導医 2 名 総合内科専門医 2 名
3）外来・入院患者数	外来：19,990 名　　入院：8,275 名　（１か月平均）
4）病院の特徴	人口約 4 万 6 千人の離島の中核病院で、一次から三次医療（高度な医療は島外の医療機関に紹介）まで行っています。医療連携室を中心として関連施設の訪問看護ステーションとともに前方及び後方連携に力を入れ地域医療のニーズに応えており、訪問診療や診療所での診察などが経験できます。 疾患群としては、循環器、呼吸器、消化器、内分泌代謝、血液、腎臓など、内科一般の疾患はほぼすべて経験可能です。 心カテーテル検査・治療、ペースメーカー植込み、気管支鏡、胸腔ドレナージ、上部、下部内視鏡検査及び治療、胆のうドレナージなどの技術の研鑽を積むことができます。

5）学会認定施設	日本内科学会教育関連病院、日本循環器学会研修関連施設、日本眼科学会一般研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ、日本神経学会準教育施設、日本肝臓学会関連施設、日本消化器外科学会指定修練関連施設、日本消化器病学会関連施設、日本消化器内視鏡学会指導連携施設、日本産科婦人科学会連携施設、日本周産期・新生児医学会（母体・胎児）補完施設、日本整形外科学会研修施設、日本乳癌学会関連施設、日本脳卒中学会研修教育施設、プライマリ・ケア学会認定医研修施設

３４．豊栄病院

1）専攻医へメッセージ	人々が生活を営む上で必須の社会的共通資本は様々ありますが、病院もその立地する地域のソーシャルネットワークの一員として、“地域医療”を展開することを役割としています。当院は疾病の治療の場としてだけでなく、近隣住民の健康意識の啓発や予防活動を通じてより健やかに暮らせる社会形成への貢献をも目標としているため、行政はじめ他の医療機関・介護施設に関わる多職種間の連携・協調に力をいれています。研修では、内科の初診外来を受け持つことから、いわゆる“一般的な疾患”を多く経験することができ、高齢者が多い入院診療も臓器別ではない横断的な総合診療が必要で、退院後の生活の場の整備・調整を考慮して MSW や理学療法士、栄養士など多職種と協力して行う医療を学べます。関心と興味をもって臨めばプログラム外にも得るものが大きいと思います。
2）指導医・専門医数	総合内科専門医 6 名 内科指導医 1 名 日本透析医学会指導医 1 名 透析専門医 1 名 腎臓専門医 1 名 消化器病専門医 3 名 消化器内視鏡専門医 3 名 呼吸器専門医 2 名
3）外来・入院患者数	外来：6,863 人　　入院：4,911 人　（1 か月平均）
4）病院の特徴	当院は新潟市街からほど近く、下越・新潟医療圏の境界にある田園地帯である人口 7 万人強の北区で唯一の総合病院です。病床 199 床で常勤は内科の腎、呼吸器、消化器と、外科、整形、歯科がおり、外来診療には新潟大学から循環器内科、眼科、泌尿器科、他に心療内科、神経内科の応援を受けています。小児と妊産婦以外の幅広い世代が対象のため、自身の専門を超えた横断的な診療、院内で完結しえない場合は近隣の高次機能病院と連携するなど総合診療やネットワーク医療が経験できます。当地は農業が盛んな地域でもあり、「医食同源」、「医と農・食」の視点から、医療の地域貢献を考えることもできると思います。
5）学会認定施設	日本透析医学会教育関連施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本消化器病学会指導関連施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設

３５．新潟医療センター

1）専攻医へメッセージ	新潟市内有数の総合病院であり、高齢者の感染症などの一般医療から、心筋梗塞でのカテーテル治療などの高度医療まで幅広い症例を経験することができる病院ならではのプログラムです。私たちは、患者様の健康を第一に考え、最適な医療を提供することを使命としています。そのために、専門性を活かしつつ、安心できる医療を提供しています。
2）指導医・専門医数	内科指導医 10 名 総合内科専門医 11 名 消化器病専門医 4 名

	循環器専門医 3 名 内分泌代謝科専門医 1 名 糖尿病専門医 1 名 呼吸器専門医 4 名 神経内科専門医 4 名 臨床腫瘍専門医 1 名
3）外来・入院患者数	（1 日当り）外来：541 名　　入院：260 名
4）病院の特徴	新潟医療センターは、急性期医療を中心にしながらも幅広い領域で診療を行なっている。内科専門研修では、内科学会券種手帳の血液内科以外のほぼ全ての疾患群を診ることができる。 経験できる技術・技能としては、下記が挙げられる。 【循環器内科】：心臓カテーテル検査、心臓電気生理学的検査、心電図（安静・運動負荷）、ホルター心電図、心血管エコー、心臓核医学検査（SPECT、PET）、冠動脈ＣＴ、心臓ＭＲＩ、心肺運動負荷試験 【呼吸器内科】：胸部聴打診法、気管支内視鏡検査（気管支肺胞洗浄、肺生検）、超音波内視鏡検査、胸腔穿刺・胸腔ドレナージ、胸膜癒着術、睡眠時無呼吸検査、侵襲的人工呼吸器管理、非侵襲的人工呼吸器管理（NIPPV）、在宅呼吸療法（HOT、CPAP）、画像検査（胸部 X 線写真、胸部 CT、MRI、胸部疾患に関する RI 検査等の読影）、喀痰検査（微生物、PCR、細胞診）、腫瘍マーカー、ウイルス学的検査、呼吸機能検査の解釈、動脈血ガス分析の解釈 【消化器内科】：上部・下部消化管内視鏡検査、超音波内視鏡検査、腹部超音波検査、食道静脈瘤結紮術、胃瘻造設、腹部血管造影、ＥＳＤ、肝癌ラジオ波凝固術、肝生検、ＥＲＣＰ，ＰＴＣＤ，ＰＴＧＢＤ，内視鏡胆管ドレナージ、ＥＳＴ、ＥＰＢＤ 【腎臓内科】：腎生検、透析導入、緊急透析、内シャント手術、血液吸着療法、ＣＨＤＦ また、地域医療・診療連携においては、院内に急性期病床を有するため、新潟市内の多数のかかりつけ医、慢性期病院、療養施設との病診連携を行っている。
5）学会認定施設	日本内科学会認定制度教育関連病院　日本循環器学会専門医研修施設　日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設　日本動脈硬化学会専門医制度教育施設　日本消化器病学会専門医制度審議委員会認定施設　日本消化器病内視鏡学会指導施設　日本糖尿病学会認定教育施設　日本内分泌学会認定教育施設　日本神経学会認定準教育施設　日本外科学会外科専門医制度修練施設　日本皮膚科学会認定専門医研修施設　日本泌尿器科学会専門医研修施設　日本整形外科学会認定医研修施設　日本麻酔科学会麻酔科認定施設　日本心血管インターベーション治療学会認定研修関連施設　日本がん治療認定研修施設　人間ドック認定施設　日本医学放射線学会画像診断管理認定施設　㈶日本医療機能評価機構(3rdG:Ver.2.0)認定

３６．済生会新潟病院

1）専攻医へメッセージ	地域医療支援病院として地域の内科疾患全般の診療を行っており、日常頻度の高い疾患から専門的医療を必要とする疾患まで幅広い疾患を経験することができます。さらに、各種検討会やカンファレンスを行い、複数の医師やコメディカルスタッフとの連携を通して、チーム医療や患者との接遇を学ぶことができます。また、多数の学会専門医修練施設としての認定を受けています。
2）指導医・専門医数	内科指導医　10 名 総合内科専門医　14 名 消化器病学会　指導医 4 名／専門医 12 名

	循環器学会　専門医 8 名 内分泌学会　指導医 2 名／専門医 2 名 腎臓学会　指導医 4 名／専門医 2 名 呼吸器学会　指導医 1 名／専門医 3 名 血液学会　専門医 2 名 リウマチ学会　指導医 1 名／専門医 1 名 糖尿病学会　専門医 1 名／研修指導医 1 名 老年医学会　専門医 1 名 肝臓学会　指導医 1 名／専門医 5 名 消化器内視鏡学会　指導医 3 名／専門医 11 名
3）外来・入院患者数	外来：15,034 名　　入院：823 名 （2025 年 4 月～2026 年 3 月の 1 か月平均）
4）病院の特徴	各診療科を有する総合病院として、幅広い疾患分野の医療や二次救急に対応でき、各専門分野の学会認定施設としての指定も受けている。また、臨床部門と病理部門との検討も活発に行っている。
5）学会認定施設	日本内科学会認定医制度における教育関連病院、日本専門医機構専門医制度専門研修プログラム認定、日本腎臓学会認定教育施設、日本透析医学会専門医制度に基づく認定施設、日本リウマチ学会教育施設、日本血液学会認定医に係わる研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本神経学会専門医制度における教育関連施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本消化器病学会専門医認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設(連携施設)、日本門脈圧亢進症学会技術認定教育施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本小児科学会小児科専門医制度による研修施設、日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本消化器外科学会連携（腹腔鏡下肝切除術）、日本大腸肛門病学会認定施設、日本乳癌学会認定関連施設、日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設、日本胃癌学会認定施設 B、日本整形外科学会認定医制度による研修施設、呼吸器外科専門医新潟大学医歯学総合病院の関連施設、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構規則に規定する新潟大学医歯学総合病院の関連施設、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構規則に規定する基幹施設、日本胸部外科学会認定医認定制度規則に規定する指定施設、日本心臓外科学会フィブリノゲン製剤登録施設、腹部ステントグラフト実施施設、胸部ステントグラフトの実施施設、浅大腿動脈ステントグラフト実施施設、下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設、日本皮膚科学会認定専門医研修施設、日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設拠点教育施設、日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設、日本産科婦人科学会専門研修連携施設、日本生殖医学会生殖医療専門医制度認定研修施設、特定非営利活動法人婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構の登録参加認定施設、母体保護法による施設、日本周産期・新生児医学会周産期専門医(母体・胎児)の暫定研修施設、日本産科婦人科内視鏡学会の認定研修施設、日本眼科学会専門医制度研修施設、日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設、日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関、日本医学放射線学会画像診断管理認証施設、日本麻酔科学会麻酔科認定病院、日本病理学会研修認定施設、日本臨床細胞学会施設認定、日本臨床細胞学会施設認定制度コントロ

	ールサーベイ参加、日本臨床細胞学会教育研修施設、日本臨床衛生検査技師会精度保証施設、日本人間ドック学会優良二日ドック施設、日本総合健診医学会優良総合健診施設、日本人間ドック学会人間ドック専門医制度過渡的措置に基づく研修関連施設、健康評価施設査定機構の定める認定施設、日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設画像認定、日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士取得に関わる実地修練施設、日本静脈経腸栄養学会 NST（栄養サポートチーム）稼働施設、日本栄養療法推進協議会認定 NST（栄養サポートチーム）稼働施設、日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本感染症学会連携研修施設

３７．村上総合病院

1）専攻医へメッセージ	県北の基幹病院として、充実した高度医療の提供と患者から信頼される病院づくりをモットーに、保健・医療・福祉の総合一体的な病院機能が展開されるよう取り組んでいます。また、県の災害拠点病院、救急指定病院として救急医療の最前線に向かってその使命を果たすことを第一として掲げています。予防医学面では、健診センターと成人病検診車による地域住民の健康管理を全面に、さらには高齢化社会に対応した訪問看護活動など、完結型病院としてさらに機能強化を目指しています。
2）指導医・専門医数	日本内科学会指導医 2 名 日本内科学会総合内科専門医 2 名 日本消化器内視鏡学会専門医 2 名 日本消化器病学会専門医 2 名 日本消化器病学会指導医 1 名 日本肝臓学会専門医・指導医 1 名 日本消化管学会胃腸科専門医・指導医 1 名 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 1 名 日本専門医機構認定総合診療専門研修特任指導医 3 名
3）外来・入院患者数	外来　133,018 名　　入院　62,673 名　（令和 7 年度受入れ延べ人数）
4）病院の特徴	新潟県の北に位置し、充実した高度医療の提供と患者から信頼される病院づくりをモットーに、保健・医療・福祉の総合一体的な病院機能が展開されるよう取り組んでいます。さらに、災害拠点病院、離島を含めたへき地医療拠点病院としての機能を備えて地域の人々の信頼に応えています。
5）学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本肝臓学会関連施設 日本消化器病学会関連施設

３８．脳神経センター阿賀野病院

1）専攻医へメッセージ	当院は新潟県難病ネットワークの協力病院に指定されています。進行した神経難病患者の長期入院を多数受け入れており、地域における神経筋疾患専門病院としての役割を果たしています。また、新潟大学脳研究所と連携・協力し、神経難病患者の臨床研究や病理学的研究に取り組んでいます。 神経疾患の初期診断から、進行期・終末期に至るまでの各病期の病態や医療的管理、機能訓練（リハビリテーション）等を幅広く学ぶことができます。気管切開、人工呼吸管理、胃瘻増設など、神経疾患の長期管理に必要な医療的手技を学ぶとともに、日常診療の中で経験した新たな知見や、死亡後の病理解剖で得られた知見などを学会報告したり、論文にまとめた

	りするよう指導します。 　当院には介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、障害者支援施設が併設しており、認知症やさまざまな老年期疾患とその管理を経験することができ、高齢者、障害者福祉全般を学ぶことができます。
2）指導医・専門医数	総合内科専門医 3 名 神経内科専門医 4 名
3）外来・入院患者数	外来：420 名　　入院：135.5 名　（1 か月平均）
4）病院の特徴	神経内科疾患の専門病院としての機能充実に努め、従来からの地域医療のほか、パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの、いわゆる「神経難病」の専門医療施設として発展した病院です。 　神経疾患全般、特にパーキンソン病及びその類似疾患、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、ハンチントン病などの神経変性疾患を多数例経験することができます。 　また、経験できる技術としては、神経系の画像診断（MRI、CT、SPECT）、神経生理学的検査（脳波、筋電図、神経伝導検査、誘発電位検査）、筋生検・神経生検、気管切開、内視鏡的胃瘻増設、人工呼吸管理などがあります。 　介護老人保健施設が併設され、特別養護老人ホームも隣接しているため、保健師、ケアマネージャー(介護支援専門員)、MSW、リハビリ担当者との定期的な連絡会に参加し、保健所や地域医療機関と連携して、神経難病患者や認知症患者の在宅医療、福祉に関して学ぶことが可能です。
5）学会認定施設	日本神経学会教育施設

３９．五泉中央病院

1）専攻医へメッセージ	五泉中央病院は新潟県五泉市にあり、五泉市唯一の救急告示病院として 24 時間 365 日救急患者を受け入れ、日常の診療から健診までの幅広い地域医療を担っています。 　総合内科、消化器、呼吸器、感染症分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。これら症例の担当医として入院から外来診療まで経時的に経験を重ね、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
2）指導医・専門医数	日本内科学会総合内科専門医 1 名　　日本呼吸器学会指導医 1 名 日本循環器学会専門医 1 名　　日本糖尿病学会専門医 1 名 日本呼吸器学会専門医 1 名　　日本アレルギー学会専門医 1 名 日本消化器病学会指導医・専門医　1 名 日本消化器内視鏡学会名誉指導医・専門医　1 名 日本肝臓学会指導医・専門医　1 名 人間ドック健診専門医 1 名 日本専門医機構総合診療専門研修特任指導医 1 名
3）外来・入院患者数	外来：5,635 名　　入院：4,227 名　（1 か月平均）
4）病院の特徴	南部郷厚生病院（透析センター、緩和ケア、神経内科）と連携しつつ、地域医療を担っています。ＭＤＣＴ６４、MRI（3.0T,1.5T）、RI（SPECT）の他、乳腺撮影装置を含め撮影装置 5 台、~~血管撮影装置~~、X 線-TV、各種電子内視鏡装置など高度医療に必要な装置が整備され、フィルムレスを取り入れるなど質の高い医療情報を提供しています。研修内容として、研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験できます。特に高齢者は複数の疾患を合わせもつため、個々の疾患を診るのみでなく、全身を総合的に診る医療を実践できます。 　また、技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を幅広く経験できます。終末期、緩和、認知症、褥瘡、廃用症候群の各種ケア、

	嚥下障害患者の栄養管理などの技術・技能を総合的に研修可能です。 地域医療・診療連携においては、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養を要する患者も多く、残存機能を評価し、多職種および家族とともに今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整、在宅へ復帰する患者についてはケースワーカーやケアマネージャーと連携し、地域のかかりつけ医への紹介などを経験できます。
5）学会認定施設	日本呼吸器学会認定施設　日本外科学会認定施設

４０．下越病院

1）専攻医へメッセージ	**当院では以下の理念の下に内科専門研修を提供します。 ①救急や外来医療・入院管理・訪問診療・地域医療などの「臨床」から見えてくる問題に真摯に取り組むことで医療実践能力を身につけること。②医療の専門家として日々進歩する知見や技術を追及し、これを患者様に還元するよう努力すること。③パートナー（コメディカル）とともに患者様を尊重したチーム医療を主体的に行うこと。④プライマリ・ヘルスケアの観点から地域からの医療要求を理解し実践すること。地域で必要な専門的医療を担える内科医になれるよう、一緒に研修に勤しみましょう。**
2）指導医・専門医数	**日本内科学会　指導医 8 名 日本内科学会　総合内科専門医 8 名 日本内科学会　認定内科医 5 名 日本消化器病学会　消化器病専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会　専門医 6 名 日本消化管学会　胃腸科専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 1 名 日本神経学会　神経内科専門医 2 名 日本アレルギー学会　アレルギー専門医 1 名 日本リウマチ学会　リウマチ専門医 1 名**
3）外来・入院患者数	**2025 年度（令和 7 年度） 内科系　年間入院患者数　5,370 内科系　１日平均外来患者数　137 名**
4) 病院の特徴	下越病院は 1953 年に新津診療所として開設すると共に、全日本民主医療機関連合会(民医連)に加盟し、差額室料を取らない医療機関として常に無差別平等の医療の実践に取り組み、現在に至ります。 病床 261 床に、HCU、回復期リハビリテーション病棟、障害者病棟、地域包括ケア病棟が含まれます。地域の中核病院として二次救急（一部三次救急）を担っています。Common Disease、プライマリ・ケアを中心に、消化器分野、循環器分野は症例豊富で、上部内視鏡、下部内視鏡はもとより ERCP や ESD、心臓カテーテル検査・治療等が経験可能であり、症例数の確保などサブスペシャルティ資格取得にも有利です。他、技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 グループ内には内科診療所、歯科診療所、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、訪問看護ステーション等を有し、地域のその他の医療介護系事業所とも連携して医療・介護を実践し、地域の要求にこたえる努力をしております。病気で生活が困難となった患者さんや弱い人の立場に立ち「無料低額診療事業」を行うなど、相談活動にもとりくんでいます。 また、約 15,000 人の患者会によって支えられる当院では、健康相談会や各種行事などに参加することで、地域に根ざした医療を経験することができます。在宅医療、福祉との連携を感じることのできる研修が可能です。
5) 学会認定施設	**日本専門医機構認定　内科専門研修プログラム基幹施設 日本専門医機構認定　総合診療専門研修プログラム基幹施設**

	日本消化器病学会認定施設 **日本消化器内視鏡学会指導施設** **日本消化管学会胃腸科指導施設** **日本循環器学会専門医研修関連施設** **日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設** **日本神経学会認定准教育施設** **日本認知症学会教育施設** **日本病態栄養学会認定ＮＳＴ実施施設** **日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム専門療法士認定教育施設** **日本プライマリ・ケア連合学会認定　家庭医療専門研修プログラム**

４１．新津医療センター病院

1）専攻医へメッセージ	高齢者における老年疾患を通じて、慢性疾患の管理、急性増悪への対応、回復期リハビリテーションなどの対応を学ぶと同時に、患者を一人の人格と捉え、その方の人生観、生活、家族や友人など、人生の一部に関わるという医療者として重要な姿勢態度を学んでいただきます。そのためには、院内完結型の思考ではなく、地域の他職種との密な協力連携関係の構築が必要であることを知り、そのために相応しい関係を如何にして形成するか、実践を通じて学んでいただきます。幸い当院には、こうした課題に熱心に取り組んでいるスタ ッフが多数いますので、皆さんからの多くの相談に対応できるものと考えています。
2）指導医・専門医数	内科指導医３名 救急科専門医１名
3）外来・入院患者数	外来：3,100 名　　入院：4,800 名　（１か月平均）
4) 病院の特徴	新潟市の田園地帯である秋葉区に位置しており、この地域で消化器病に重点を置いた診療を行なっています。また一方で、高齢化しつつある地域住民を見守る拠点としての役割を担っています。 老年病一般、呼吸器、循環器、消化器などの慢性疾患、がん、神経病などの難治性疾患等の疾患群を経験できます。また、一般的内科処置、呼吸器科的処置、消化器科的処置（内視鏡全般、肝生検ほか）、高齢者をはじめとする患者の診察術（身体診察、心理的アプローチ、パフォーマンス学など）、検査計画など総合的な診断学の技術・技能が経験可能です。 地域医療・診療連携においては、病期別病棟管理と医師の役割。地域連携相談室との協力連携。住民検診・特定健診などを介した疾病予防、秋葉区で実践されている医療・介護・福祉の連携：地域連携運営会議、地域連携協議会、手帳委員会などへの参加。新津まちなか活性化事業・健康部会への参加などが経験できます。
5) 学会認定施設	日本消化器病学会専門医制度関連施設　日本外科学会外科専門医制度関連施設　日本がん治療認定医機構研修施設　日本静脈経腸栄養学会認定稼動施設

４２．亀田第一病院

1）専攻医へメッセージ	地域の中核病院として豊富な症例を経験できる。専門としては常勤医師のいる消化器、呼吸器、循環器領域が中心となる。消化器領域は、消化器内視鏡学会専門医のもとで、上部及び下部消化管内視鏡による診断、治療を積極的に行っている。呼吸器領域では、肺炎等の感染症が中心である。循環器領域では、高齢者の心血管疾患を中心に診療し、他科患者の循環器合併症への対応を主に行っている。

2）指導医・専門医数	日本内科学会総合内科専門医 2 名　日本内科学会内科認定医 5 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 2 名、専門医・指導医 1 名 日本消化器病学会消化器病専門医 2 名 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、専門医・指導医 1 名 日本呼吸器学会専門医・指導医 1 名
3）外来・入院患者数	延外来：1,910 人、延入院：2,010 人　（2025 年度内科 1 か月平均）
4) 病院の特徴	昭和 42 年開院以来、旧亀田町、江南区唯一の病院として地域医療を担ってきた。立地場所は、交通の利便性も良く大型商業施設等の進出も盛んな市街地にある。病床は一般 156 床と地域包括ケア 41 床である。診療科では特に整形外科分野で 2 つのセンター(脊椎外科、股関節)を設置し、高度な先進的医療を提供している。また 2020 年には消化器内視鏡センターを開設し、新潟市検診をはじめ、食道がん、胃がん、大腸がんなどの早期発見・早期治療に力を入れている。救急指定病院として地域医療の一翼を担い、信頼され喜ばれる病院を目指している。
5) 学会認定施設	・日本消化器内視鏡学会専門医制度　指導連携施設 ・日本消化器病学会専門医制度　関連施設 ・日本肝臓学会専門医制度　関連施設 ・日本外科学会外科専門医関連施設 ・日本消化器外科学会専門医修練施設

４３．総合リハビリテーションセンター・みどり病院

1）専攻医へメッセージ	当院は、①神経難病②認知症③リハビリテーションを 3 本の柱とし、主に回復期と慢性期医療に力を入れています。その他、地域医療にも力を入れており、post-acute の他、高齢者の sub-acute の医療も行っています。認知症に関しては、新潟市より認知症疾患医療センターの認定を受けており、3 名の認知症学会専門医・指導医による総合的な指導を行います。神経難病に対しては神経難病リハビリや、神経難病の長期療養研修についての指導を 4 人の神経内科医体制で行います。また、回復期リハビリ病棟は 119 床を有し脳血管障害や運動器、廃用のリハビリについて研修ができます。
2）指導医・専門医数	内科指導医 1 名　総合内科専門医 6 名
3）外来・入院患者数	外来：1,420 名/月　　入院：7,240 名/月
4）病院の特徴	神経難病、認知症、脳卒中などの疾患を中心に診ることが可能で、神経診察法、認知症鑑別診断法、最新のリハビリ技術の経験ができます。診療連携・地域医療の観点からは、認知症の地域連携、脳卒中の地域連携（脳卒中連携パス）、在宅医療ネットワークを学ぶことが可能です。
5）学会認定施設	日本リハビリテーション医学会　日本認知症学会

４４．新潟南病院

1）専攻医へメッセージ	外来、入院医療だけでなく、訪問診療（地域医療）を研修していただきます。
2）指導医・専門医数	内科指導医 3 名 総合内科専門医 6 名 消化器病専門医 3 名 循環器専門医 6 名 血液専門医 2 名
3）外来・入院患者数	外来：10,375 名　　入院：5,483 名　（1 か月平均）

4）病院の特徴	誤嚥性肺炎、高齢者の心不全症例等、日常よく見られる急性期の疾患を経験いただきます。 経験可能な技術・技能では、特殊な例として在宅看取りなどが挙げられます。また、新潟市の訪問リハビリ、訪問看護、訪問薬剤指導などと連携して、在宅及び老人の介護施設での地域医療連携を経験いただきます。
5）学会認定施設	日本内科学会教育関連病院　日本血液学会血液研修施設　日本外科学会外科専門医制度関連施設

４５．日本歯科大学新潟病院

1）専攻医へメッセージ	日本歯科大学新潟病院　医科部門は、内科、外科、耳鼻科の 3 科からなる。病棟は口腔外科・内科・外科・耳鼻咽喉科からなります。内科は消化器内科医が２名おり、主に消化器疾患の入院患者が多いが、高齢者肺炎など、高齢者に特異的な疾患患者も多く入院している。外来患者は消化器疾患をはじめ、高血圧、糖尿病、高脂血症など多岐に富んでおり、さまざまな病態を学習できる。また日本歯科大学は内科関連病院の中で唯一の大学病院であるため、アカデミックな研究に接する機会も多く、知的な接触をする機会には事欠かない。
2）指導医・専門医数	内科指導医２名 総合内科専門医１名 消化器病指導医２名 消化器内視鏡専門医１名 肝臓指導医 2 名
3）外来・入院患者数	外来：1,800 名　　医科部門入院：２０名　（1 か月平均）
4）病院の特徴	主に消化器疾患全般を経験できる。胃腸系及び胆道系の疾患、肝疾患など多岐にわたる。また肺炎、心不全、糖尿病など一般内科の患者の診療も可能な限り行っている。 消化器内科としての基礎的な技術を習得できる。具体的には上部、下部の基本的内視鏡技術、ポリープ切除術を習得できる。早期胃がんの粘膜下剥離術（ESD)を習得できる。また、胆道系に関しても、乳頭切開術から ENBD,ERBD チューブ挿入、また胆管結石除去術も習得できる。肝疾患に関しては肝生検を習得できる。 また、当院では地域医療連携室が機能しており、特に高齢者やがん患者に関しては、付近の老健施設や、在宅ケア施設と緊密に連携し、患者の社会的状況に即した医療を推進している。
5）学会認定施設	日本消化器内視鏡学会指導施設　日本消化器病学会認定施設　日本静脈経腸栄養学会　NST 稼働施設　日本大腸肛門学会認定施設 日本外科学会外科専門医関連施設

４６．信楽園病院

1）専攻医へメッセージ	急性期医療における高度専門的な医療からリハビリテーションや慢性期医療、長期透析での在宅医療など幅広く学べます。その後の内科系サブスペシャリティの選択に役立ち、継続性のある内科研修が可能です。
2）指導医・専門医数	内科　指導医 8 名　総合内科専門医 13 名 循環器　専門医 1 名 糖尿病　専門医 2 名 腎臓　指導医 5 名　専門医 5 名 呼吸器　指導医 1 名　専門医 2 名 消化器病　専門医 2 名 消化器内視鏡　専門医 2 名 肝臓　専門医 1 名 神経　指導医 1 名　専門医 2 名 脳卒中　専門医 3 名

	認知症　指導医１名　専門医１名 感染症　指導医１名　専門医１名 透析医学　指導医５名　専門医５名 病態栄養　指導医１名　専門医１名 脳神経血管内治療　指導医２名　専門医３名 脳神経外　指導医２名　専門医３名
3）外来・入院患者数	外来：11,873 名　　入院：370 名　（１か月平均）
4）病院の特徴	新潟市西区の中核病院として機能しており、腎臓、循環器、消化器、感染症・呼吸器、神経内科、糖尿病の各専門領域における高度医療を要する疾患を豊富に経験できます。各領域間の連携が密接であることから、複数の問題を有する症例での診療が円滑であり、同時並行での研修が可能です。また、初期研修の段階で内科研修として経験が充分でない領域の研修を集中的に行うなど、弾力的な研修が可能です（各科の研修期間は調整可）。各科の専門的診察・検査・治療（生活指導・一般的薬物治療だけでなく、循環器内科・神経内科では救急の処置と対応やその後のリハビリテーション、腎臓内科では血液透析、感染症・呼吸器では細菌検査の手技・化学療法など）について多くの症例で経験できます。 当院には西区に別の診療所・透析施設（附属有明診療所）を有しており、また同じ系列の新潟市社会事業協会の関連施設として特別養護老人ホーム（有明園、松風園）があります。また、診療所との診療連携は約６割が西区・西蒲区の診療所、中央区が３割ですが、病診連携として診療している患者の８割以上が西区・西蒲区の患者です。
5）学会認定施設	日本内科学会　教育関連病院 日本腎臓学会　認定教育施設 日本透析医学会　認定施設 日本呼吸器学会　認定施設 日本感染症学会　認定研修施設 日本消化器病学会　関連施設 日本消化器内視鏡学会　指導連携施設 日本循環器学会　循環器専門医研修施設及び大規模臨床試験参画施設 日本糖尿病学会　教育関連施設 日本神経学会　准教育施設 日本脳卒中学会　認定研修教育病院 日本外科学会　外科専門医制度関連施設 日本脳神経外科学会　専門医指定訓練施設 日本脳神経血管内治療学会　研修施設 日本静脈経腸栄養学会　ＮＳＴ稼動認定施設 日本病態栄養学会　栄養管理・ＮＳＴ実施施設 日本病態栄養学会　専門医研修認定施設 日本認知症学会　教育施設 日本カプセル内視鏡学会　指導施設 日本口腔外科学会　准研修施設 日本脳卒中学会　一次脳卒中センター（PSC）コア施設

４７．新潟脳外科病院

1）専攻医へメッセージ	脳疾患・脳血管障害の経験を積みたい方に最適です。
2）指導医・専門医数	循環器専門医　１名（非） 認知症専門医　１名 認知症指導医　１名 消化器病専門医　１名（非） 消化器内視鏡専門医　１名（非） 総合内科専門医　６名（非）

	総合内科指導医　2名（非） 神経内科専門医　3名（非） 神経内科指導医　2名（非） 呼吸器専門医　2名（非） 呼吸器指導医　2名（非）
3）外来・入院患者数	外来：2,705名　　入院：3,916名　　（延べ1か月平均）
4）病院の特徴	脳神経外科専門病院ですが、内科、脳神経内科も標榜しております。内科的課題を抱えている高齢者も多く受療しています。
5）学会認定施設	日本脳卒中学会一次脳卒中センター（PSC） 日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携施設 日本認知症学会専門医教育施設

４８．木戸病院

1）専攻医へメッセージ	木戸病院は新潟医療生活協同組合が運営する新潟市東区の急性期医療を担う救急指定病院です。地域医療における総合内科医としての役割だけでなく、総合内科的視点を持ったサブスペシャリストとしての能力も身につけられるよう各科の専門医が親身になって指導にあたります。医局内の雰囲気はとてもアットホームで、診療科の垣根がなく、他科のＤｒにもいつでも気軽に相談出来ます。他のメディカルスタッフとの連携も良く、働きやすい環境の中でぜひ当院での研修を経験してみて下さい。
2）指導医・専門医数	内科指導医　14名 総合内科専門医6名 消化器病専門医3名 循環器専門医3名 内分泌代謝科専門医2名 糖尿病専門医3名 腎臓専門医1名 呼吸器専門医1名 肝臓専門医2名 消化器内視鏡専門医4名 透析専門医1名 神経内科専門医3名
3）外来・入院患者数	外来：140,466名　　入院：88,030名（年間延患者　2025年度実績）
4) 病院の特徴	当院は急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療を展開しています。周辺にある多くの診療所や介護・福祉事業所と連携し、入院中の診療だけではなく退院後の療養も見据えたより包括的な医療を研修可能です。地域住民の健康づくり活動を行っています。 特に糖尿病の症例数が多いのが特徴で重症例は合併症も多く、必然的に「全身を診る」ことにつながります。また、内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
5) 学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設　赤字追加 日本肝臓学会関連施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本透析医学会専門医制度新潟大学医歯学総合病院の教育関連施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設

	日本整形外科学会認定医制度研修施設 日本皮膚科学会認定専門医研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 マンモグラフィ検診施設

４９．桑名病院

1）専攻医へメッセージ	桑名病院は脳卒中への対応をはじめとした急性期医療から回復期リハビリテーション・地域包括ケア病棟・在宅医療まで地域に密着した医療を提供している病院です。
2）指導医・専門医数	内科指導医 0 名・総合内科専門医 1 名 循環器専門医 1 名
3）外来・入院患者数	外来：801 名　　入院：1355 名　（1 か月平均の延入院数）
4) 病院の特徴	地域の基幹病院として急性期から在宅医療まで積極的に展開しており、様々な症例が経験可能です。24 時間対応の救急外来を開き、一般診療の他に脳神経外科と循環器内科の卒中患者を対象とするストロークセンターを稼働させるなど、急性期を主としています。 また、「新潟エッセン」という名で摂食･嚥下障害の評価･治療を地域の開業医と連携する地域医療連携の枠組みで行っています。
5) 学会認定施設	日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練病院　日本外科学会外科専門医制度関連施設

５０．新潟臨港病院

1）専攻医へメッセージ	小さな病院ですが、その分小回りが利きます。一人の意見を全体で考えて反映させていきます。地理的にも新潟市内ですので移動に時間的な制約を受けにくい利点もあります。
2）指導医・専門医数	内科指導医数 9 名 総合内科専門医 9 名 消化器病専門医 4 名 腎臓専門医 3 名 呼吸器専門医 3 名 リウマチ専門医 2 名 消化器内視鏡専門医 3 名 消化管専門医 1 名 人間ドック健診専門医 2 名 透析専門医 2 名 呼吸器内視鏡専門医 1 名 肝臓専門医 2 名 高血圧専門医 1 名 睡眠学会専門医 1 名
3）外来・入院患者数	外来：7514 名　　入院：4743 名　（1 か月平均）
4）病院の特徴	小さな病院のためチーム医療でカバーしていることが多くなっていますので、病院全体で症例を共有する雰囲気が強いです。 呼吸器内科では閉塞性肺疾患、睡眠時無呼吸症（SAS）、市中肺炎や肺癌など呼吸器全般の診断/治療を行っています。また、呼吸器機能低下に対する呼吸リハビリ・在宅酸素療法・薬物療法や、SAS に対する CPAP 治療も力をいれ、病診連携を通じて地域医療に貢献しています。 腎臓内科では健診異常に対する腎生検および組織診断、慢性腎疾患や中等度～高度腎機能低下症例の CKD 病診連携、末期腎不全～透析治療のためのシャント形成、透析症例の合併症と管理/他施設との連携などが経験できます。 消化器内科では悪性腫瘍を中心とした器質的な疾患、出血・炎症性疾患などの良性疾患や消化管機能異常、肝胆膵疾患のいわゆる common disease

	の診療を行います。上部・下部・肝胆膵の消化管内視鏡検査および治療、肝・胆疾患の経皮的処置などを共有できます。他、癌薬物療法は外来/入院でも力をいれており、消化器内科・外科の連携のなかで、手術対応症例も経験できます。 さらに当院の大きな特徴として、在宅医療に力をいれており、訪問看護ステーションを介した地域の患者さんの治療介入・相談・訪問診療（いわゆる往診）を経験していただきます。
5）学会認定施設	日本内科学会　日本腎臓学会　日本透析医学会　日本呼吸器学会　日本消化器内視鏡学会　日本消化器病学会　日本高血圧学会

５１．新潟白根総合病院

1）専攻医へメッセージ	介護・福祉とも連携した地域密着型医療を行っております。 対象患者は高齢者が主体であり、全人的医療をめざしています。
2）指導医・専門医数	内科指導医 3 名 総合内科専門医 1 名 消化器病専門医 2 名 循環器専門医 2 名 腎臓専門医 1 名 神経内科専門医 1 名 肝臓専門医 1 名
3）外来・入院患者数	外来：318.0 名　　入院 130.0 名　（1 日平均）
4）病院の特徴	当院では高齢入院患者が多いため、3 名の MSW が介護・福祉との連携に努めております。 肺炎、脳血管疾患、心不全、腎不全など所謂 common disease が中心となります。消化器内科は比較的症例が豊富で疾患群も多岐にわたります。 また、消化器内科では、上下部内視鏡を用いた検査と共に ESD,stent 留置、ドレナージ・砕石術など様々な手技を経験できます。PTA など IVR を経験することも可能です。
5）学会認定施設	日本外科学会外科専門医制度関連施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設

５２．秋田赤十字病院

1）専攻医へメッセージ	当院は内科各分野に限らず、ほぼ全科が揃っている三次救急指定病院のため超急性期医療から慢性期医療、Common disease から報告に値する rare な症例まで幅広く経験することが可能です。外科、他職種とのカンファランスや内科症例検討会も充実しており、診療科を超えたチーム医療が行われております。また、職員旅行や部活動など他科医師やコメディカルスタッフとの交流の場も豊富です。「日々の研修が楽しい」「質問しやすい」と思える職場でみなさんをお待ちしております。
2）指導医・専門医数	日本内科学会認定内科医　　26 名 総合内科専門医　　14 名 日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医　　5 名 日本消化器病学会認定消化器病専門医　　13 名 日本循環器学会認定循環器専門医　　5 名 日本糖尿病学会研修指導医　　3 名 日本糖尿病学会専門医　　4 名 日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医・内分泌代謝科指導医　　1 名 日本腎臓学会腎臓専門医・指導医　　2 名 日本腎臓学会腎臓専門医　　5 名

	日本透析医学会透析専門医・指導医　1名 日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医　1名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　1名 日本血液学会認定血液専門医・血液指導医　2名 日本血液学会認定血液専門医　3名 日本神経学会認定神経内科専門医・指導医　2名 日本アレルギー学会専門医　1名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医　3名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医　6名 日本肝臓学会認定肝臓専門医・指導医　1名 日本肝臓学会認定肝臓専門医　4名 日本超音波医学会認定超音波専門医・指導医　0名 日本超音波医学会認定超音波専門医　1名 日本臨床腫瘍学会指導医　1名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医　1名 日本消化管学会胃腸科認定医・専門医・指導医　1名 日本消化管学会胃腸科認定医　1名 日本医師会認定産業医　6名 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医　3名 日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症認定医・指導医　0名 日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症認定医　0名 日本超音波医学会認定超音波専門医　1名 日本超音波医学会認定超音波専門医・指導医　0名 日本脈管学会認定脈管専門医　0名 日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症認定医・指導医　1名 日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症認定医　1名 日本脈管学会認定脈管専門医　1名
3）外来・入院患者数	外来：14,444名　　入院：11,224名　（1か月平均）
4）病院の特徴	症例の経験については、各科担当指導医が個別にコーディネートし、専門医になるために必要な症例を効率的に経験することができます。 さらに当院は救命救急センターとして各分野横断的な診療機会が多い一方で、下記のとおり内科系診療科・部門が充実しており、サブスペの経験値を充分に深められるチャンスにも恵まれています。 消化器内科（肝胆膵）、消化器内科（消化管）、代謝内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、腎臓内科、血液内科、内科（総合診療）、救急科、緩和ケア内科、健診部、検査部 また、毎週定期的に内科系診療科の輪番で検討会も開催しており、幅広く勉強できる環境が整っています。
5）学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育病院 日本透析医学会認定医制度教育関連施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医教育研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修基幹施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

	日本小児科学会小児科専門医研修施設 日本周産期・新生児医学会新生児認定施設 日本周産期・新生児医学会母体・胎児認定施設 日本消化器外科学会専門医制度修練施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本乳癌学会認定施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設 日本肝臓学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本航空医療学会認定指定施設 日本形成外科学会専門医制度認定施設 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本脳神経外科学会専門研修連携施設 呼吸器外科専門医合同委員会認定専門研修連携施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本産科婦人科学会専攻医指導施設 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医研修施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 日本麻酔科学会認定病院 日本病理学会研修認定施設（Ｂ） 日本臨床細胞学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター マンモグラフィ（乳房エックス線写真）検診施設 日本精神神経学会精神科専門研修連携施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会認定ＮＳＴ稼働施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本急性血液浄化学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本皮膚科学会認定専門医研修施設 日本女性医学学会専門医制度認定研修施設 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会インプラント実施施設 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会エキスパンダー実施施設 日本人間ドック学会人間ドック健診専門医研修施設 日本血液学会専門研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設群連携施設

	日本脳神経外傷学会認定研修施設 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設

５３．鶴岡市立荘内病院

1）専攻医へメッセージ	地域の中核病院として、急性期医療からコモンディジーズまで、豊富な症例が経験でき、また高齢者医療を中心に中核病院と地域の診療所との病診連携についての研修ができます。
2）指導医・専門医数	内科指導医　5名　血液専門医　1名 神経内科指導医　1名　神経内科専門医　1名 認知症指導医　1名　循環器専門医　4名 総合内科専門医　7名　認知症専門医　1名 消化器病専門医　1名　脳卒中専門医　2名
3）外来・入院患者数	外来：5,546名　入院：5,060名　（1か月平均※令和7年度実績）
4）病院の特徴	新潟大学医歯学総合病院の内科連携施設として経験可能な疾患群は、消化器領域、循環器領域、腎臓領域、血液領域、神経内科領域、膠原病領域、救急領域となります。また、総合内科（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）の基本的診療技能。消化器疾患、循環器疾患、血液疾患、神経内科疾患、腎臓疾患（透析含む）、糖尿病の診断及び治療に係る技術、技能を経験できます。 地域医療研修においては、庄内南部地域の中核病院としての地域内の診療所との診療連携の役割を経験することが可能です。
5）学会認定施設	日本アレルギー学会認定教育施設　日本泌尿器科学会専門医関連教育施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本産科婦人科学会専門研修連携施設　日本小児科学会専門医研修施設 日本周産期・新生児医学会専門医制度(新生児)指定研修施設　日本周産期・新生児医学会専門医制度(母体・胎児)指定認定施設　日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関　日本口腔外科学会認定准研修施設　日本がん治療認定医機構認定研修施設　日本麻酔科学会麻酔科認定病院　日本乳癌学会認定施設　日本病理学会研修登録施設　日本緩和医療学会認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設　日本整形外科学会専門医制度研修施設 日本栄養治療学会ＮＳＴ稼働施設　日本栄養治療学会ＮＳＴ専門療法士認定教育施設　日本手外科学会基幹研修施設 日本栄養療法推進協議会ＮＳＴ稼働施設　日本脳神経外科学会専門医関連施設 日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設　日本臨床衛生検査技師会精度保証施設　病院機能評価認定（3rdG:Ver2.0） ＮＣＤ（National Clinical Database）施設　日本脳卒中学会研修教育施設　日本認知症学会教育施設　日本消化器病学会関連施設 がん病態栄養専門管理栄養士研修実施修練施設　日本神経学会専門医制度准教育施設　日本病院総合診療医学会認定施設　日本小児外科学会教育関連施設Ｂ　母体保護法指定医師研修機関 日本臨床神経生理学会認定施設　一次脳卒中センター（PSC） 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設　日本東洋医学会研修施設 日本歯科麻酔学会研修機関　日本専門医機構認定集中治療科研修協力施設 マンモグラフィ検診施設・画像認定施設　日本腹部救急医学会認定施設 日本顎変形症学会研修施設

	日本歯科麻酔学会歯科麻酔専門医研修施設　日本口腔外科学会口腔外科専門医准研修施設　日本小児神経学会小児神経専門医研修施設

５４．山形県立中央病院

1）専攻医へメッセージ	山形県立中央病院は、山形県村山二次医療圏の中心的な急性期病院であり、救命救急センター、がん生活習慣病センターを併設、総合周産期母子医療センター、緩和ケア病棟を備え、長期療養型の疾患以外は全ての疾患に対応しています。新潟大学医歯学総合病院の連携施設として内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。
2）指導医・専門医数	内科指導医数 35 名 総合内科専門医 18 名 消化器病専門医 7 名 循環器専門医 6 名 糖尿病専門医 2 名 腎臓専門医 1 名 呼吸器専門医 6 名 血液専門医 3 名 神経内科専門医 3 名 感染症専門医 3 名 救急科専門医（内科）1 名
3）外来・入院患者数	外来患者数：359 名（内科系・1 日平均）入院患者数：146 名（内科系・1 日平均)
4）病院の特徴	入院患者及び外来患者を合わせた診療において、きわめて稀な疾患を除き、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
5）学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本血液学会認定医研修施設 日本神経学会認定医制度教育施設 日本脳卒中学会専門医研修教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会認定指導施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器集団検診学会認定指導施設 日本気管支学会認定医制度認定施設 日本不整脈学会・日本心電図学会不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本輸血細胞治療学会Ｉ＆Ａ認定施設

	日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本老年医学会認定施設

５５．竹田綜合病院

1）専攻医へメッセージ	当院は福島県会津・南会津診療圏 24 万人の中核病院です。病床数は 837 床あり、救急患者を含む多くの症例を経験できます。医師数は 130 名で新潟大学関連診療科の先生は 5 名（内科系）、他に全国 40 数大学の出身者がいて、各診療科の垣根が低く相談しやすい環境です。新潟大学より脳神経内科、消化器内科に診療応援に来てもらっています。当院の内科系指導医は 11 名と少ないのですが、一生懸命指導しようと絶えず新しいことを勉強していますので、ぜひ研修に来てください。
2）指導医・専門医数	内科指導医　　15 名 総合内科専門医 10 名 消化器病専門医 6 名 糖尿病専門医 1 名 腎臓専門医 1 名 呼吸器専門医 1 名 神経内科専門医 4 名 リウマチ専門医 2 名
3）外来・入院患者数	外来：7,366 名／月　　入院：354 名／月（実数）
4）病院の特徴	内科専門研修において、血液疾患の治療以外はすべて経験できます。血液疾患の診断につきましては、福島県立医大会津医療センターから月 2 回の派遣を受け診療に当たっています。 各科の代表的な検査や治療の手技を、見学ではなく実際に経験していただきます。例えば 3 か月の研修期間があれば上部内視鏡検査を一人でできるように指導します。内視鏡や循環器 IVR は十分な症例数があります。 在宅医療としましては、脳神経内科と緩和医療科で行っています。同じ財団の療養型施設として芦ノ牧温泉病院で慢性期医療を経験できます。
5）学会認定施設	内科学会教育病院　糖尿病学会認定教育施設　循環器学会専門医研修施設　神経学会教育関連施設　呼吸器学会認定施設　消化器病学会認定施設　消化器内視鏡学会認定指導施設　プライマリ・ケア学会研修施設　麻酔学会指導病院　呼吸器外科学会専門医関連施設　皮膚科学会専門医研修施設　脳神経外科学会訓練施設　病理学会認定病院　形成外科学会認定医修練施設　胸部外科学会認定施設　眼科学会専門医研修施設　整形外科学会認定研修施設　消化器外科学会専門医修練施設　耳鼻咽喉科学会専門医研修施設　産婦人科学会卒後研修指導指定施設　小児科学会専門医研修施設　泌尿器科学会教育施設　医学放射線学会専門医修練機関認定施設　心血管インターベンション学会研修関連施設　小児科学会専門医研修施設認定　外科学会専門医制度修練施設　老年精神医学会認定施設　臨床細胞学会認定施設　周産期･新生児医学会指定研修施設　脳卒中学会研修教育病院　手の外科学会専門医関連研修施設　大腸肛門病学会認定施設　日本精神神経学会研修施設　日本乳癌学会関連施設　NST 稼働施設認定証（日本静脈経腸栄養学会）　日本輸血・細胞治療学会 I&A

５６．水戸済生会総合病院

1）専攻医へメッセージ	当院は救命救急センターを有する地域の基幹病院で、特に消化器内科、腎臓内科、循環器内科はスタッフも多く、幅広い症例を経験できます。

	また、県立こども病院と隣接し、総合周産期母子医療センターを有しているため、他施設ではなかなか経験できない先天性疾患や若年性疾患も経験可能です。さらに 2023 年度からリウマチ専門医と神経内科専門医が、2024 年度から血液専門医が常勤に加わり、幅広い診療が可能となっています。 　各診療科ともサブスペシャルティ学会や関連学会の認定施設や修練施設となっていることから、研修期間や経験症例の確保など、サブスペシャルティ資格取得にも有利です。 いずれの診療科でも、専攻医には担当患者だけにとどまらず積極的に診療に関わってもらっていますので、専攻医にとって診療のレベルアップに最適な環境と言えます。
2）指導医・専門医数	内科指導医 8 名 消化器病専門医 6 名、循環器専門医 4 名、腎臓専門医 2 名、血液専門医 1 名、リウマチ専門医 1 名、総合内科専門医 9 名、内視鏡専門医 5 名、肝臓専門医 2 名、脳神経血管内治療専門医 1 名 （2026 年 4 月 1 日現在）
3）外来・入院患者数	外来：319.2 名　　入院：123.4 名　（2025 年度：内科 1 日平均）
4）病院の特徴	消化器内科は内視鏡治療は当然のこと、当院ではエコー下穿刺治療、血管内治療もすべて自科で行います。食道静脈瘤に対する BRTO や憩室出血や腹腔内出血も血管内治療グループと共に治療にあたり、消化器内科がカバーすべきほぼすべての治療手技＋αを習得できます。また、EUS 下穿刺治療（Hot AXIOS）、胆道鏡（SpyGlass）のような高難度治療や、外科との合同手術（LECS）も導入し、これからの内視鏡医に求められる新しい治療技術も身に着けられます。また、オンオフをはっきりできる診療体制を院内でいち早く構築し、有給取得数も非常に多くなっています。 腎臓内科は腎生検や透析導入件数が多く、特に透析導入件数は年間 100 件を超えて、県内だけでなく全国でもトップクラスとなっています。さらにシャント PTA やシャント手術も県内外から紹介されるため、年間 400 件を超える豊富な症例を有しています。 循環器内科は循環器センターとして心臓血管外科との連携が良好です。このため虚血、不整脈、大血管、末梢血管、心不全のデバイス治療など、循環器領域の治療はほぼ対応可能です。現在は経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）、左心耳閉鎖術（WATCHMAN®）、経皮的僧帽弁形成術（MitraClip）も導入され症例を重ねています。 リウマチ膠原病内科と血液内科は常勤医 1 名体制、脳神経内科医は常勤医が 1 名ですが、脳神経外科とともに脳卒中の血栓回収など血管内治療に取り組んでいます。
5）学会認定施設	日本内科学会教育関連病院 日本循環器学会認定研修病院 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 不整脈専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本病理学会認定病院 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本消化器病学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定研修施設 日本肝臓学会専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本癌治療学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設

	日本アフェレシス学会認定施設 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本腎蔵学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設

５７．埼玉県済生会川口総合病院

1）専攻医へメッセージ	埼玉県済生会川口総合病院は最寄り駅（西川口駅）まで東京駅から 30 分、新宿駅から 25 分、大宮駅から 20 分の位置にある埼玉県南部医療圏の中心的な急性期病院です。埼玉県内及び近隣医療圏にある大学病院を含む連携施設で内科専門研修を行い、リサーチマインドを刺激しつつ地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
2）指導医・専門医数	日本内科学会総合内科専門医 13 名　内科指導医 20 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本内分泌学会内分泌専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本腎臓学会専門医 5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 1 名 日本肝臓学会肝臓専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会専門医 8 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名 **日本感染症学会専門医 1 名** **日本老年医学会 1 名**
3）外来・入院患者数	延べ外来患者数：7,150 名／入院患者総数：440 名(2025 年度 1 ヶ月平均)
4) 病院の特徴	内科専門研修においては、きわめて稀な疾患を除き、消化器・循環器・代謝・腎臓・救急などにおいては、幅広く症例を経験することができます。また、技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、臨床の第一線病院ならではのメリットを活かして、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。急性期医療だけでなく、超高齢社会にも対応した地域に根ざした医療、病診連携なども経験できます。
5) 学会認定施設	日本肝臓学会認定施設　日本がん治療認定医機構認定研修施設　日本呼吸器学会認定施設　日本消化器内視鏡学会認定指導施設　日本消化器病学会認定施設　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設　日本腎臓学会研修施設認定　日本透析医学会認定医制度認定施設　日本糖尿病学会認定教育施設　日本内科学会認定制度審議会認定教育病院　日本内分泌学会認定教育施設　日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設　他

５８．榊原記念病院

1）専攻医へメッセージ	榊原記念病院は東京都北多摩南部地域の循環器専門の地域医療支援病院であり、新潟大学医歯学総合病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として循環器内科研修を行い、内科専門医の育成を行います。当院はカテーテル治療総数が年間 3，500 件、開心術数が年間 1,200 件を超えるなど、豊富な症例数を誇っています。指導医は心血管インターベンション、心不全、不整脈（カテーテルアブレーション）、ICDやペースメーカー植え込み、心エコー、画像診断（CT/MRI/核医学）、心臓リハビリなど各領域の専門家がそろっており、循環器診療においてほぼすべての領域をカバーできます。
2）指導医・専門医数	内科指導医 18 名 /循環器専門医 40 名（2026 年 4 月時点）

3）外来・入院患者数	2024 年度実績　外来患者(約)68089 名　入院患者 9872 名
4）病院の特徴	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある循環器領域、10 疾患群の症例を幅広く経験することができます。また、技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な循環器領域の技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 地域医療連携においては、急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
5）学会認定施設	日本循環器学会認定 循環器専門医研修施設 経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会認定 経カテーテル的大動脈弁置換術 指導施設 日本内科学会認定医制度 教育関連－特殊施設 日本不整脈心電学会認定 不整脈専門医 研修施設 日本核医学会専門医 教育病院 日本集中治療医学会認定 日本集中治療医学会専門医 研修施設 日本成人先天性心疾患学会認定 成人先天性心疾患専門医 総合修練施設 日本心エコー図学会認定心エコー図専門医制度 研修関連施設 日本心臓リハビリテーション学会認定 心臓リハビリテーション研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定 研修施設 日本医学放射線学会が定める規定に基づく 放射線科専門医 特殊修練機関 日本超音波医学会認定 超音波専門医 基幹施設 日本動脈硬化学会専門医制度 教育病院 日本脈管学会認定 研修指定施設 公益社団法人 日本医学放射線学会 放射線科専門医特殊修練機関 など

〒951-8510
新潟市中央区旭町通1番町757番地
新潟大学医歯学総合病院
総合研修部医師研修センター
e-mail:nar@adm.niigata-u.ac.jp
TEL:025-227-0895